

一年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
看護物理学	1	30	1年前期	森山 隆則（○）
科目のねらい ものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理および医療機器の原理について理解し看護における科学的ものの見方を涵養する				
教科書：なし 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書に準じた進め方で、解りやすいパワーポイントを用い基礎看護技術の物理学的な原理について演習を取り入れ平易に解説します また、ものには全て単位がありその意味・考え方について演習を通して解説します さらに様々な医療機器の原理および使用上の注意について解説します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	重さ・容積・濃度の単位	2	単位の接頭語および単位の換算について	講義 演習
2	単位の換算演習	2	単位の換算	
3	体位変換に必要な物理学	2	体位変換の基礎理論について 作用と反作用	
4	トルクの考え方と演習	2	体位変換に役立つトルクの計算について	
5	温度の定義と検温の意義	2	体熱の産生と喪失のバランスについて 熱の移動	
6	冷電法温電法の物理学	2	温度・比熱	
7	看護に必要な電気理論	2	電気理論について	
8	大気圧の定義と血圧の単位	2	圧力の様々な定義と単位、血圧測定の注意事項	
9	酸素ポンベの物理学	2	気体の基礎的法則について	
10	点滴の基礎理論	2	位置エネルギーと運動エネルギーについて	
11	浸透圧・血液透析の原理	2	浸透圧の考え方・計算方法・単位について	
12	酸・アルカリ・pH	2	酸・アルカリ・水素イオン濃度について	
13	重量濃度・モル濃度・換算	2	溶液の各種濃度の表現方法について	
14	内視鏡・超音波の原理	2	内視鏡・超音波の原理について	
15	電磁波の種類と応用	2	電磁波の種類と医療への応用について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
英語 I	2	30	1 年前期	佐藤 有(○)
科目のねらい ①医療に関わる基本的な英語用語を身につける②関係文書の読解力・活用力を高める③英語のコミュニケーション能力を高める				
教科書 : Akihiko Higuchi, John Tremarco <i>First Aid! English for Nursing</i> KINSEIDO 2013 参考文献: 特になし				
評価方法: 単位認定試験: 優 (80 点以上)、良 (70 点以上)、可 (60 点以上)、不可 (60 点未満)				
授業の進め方: 授業は基本的に教科書に沿って進めます。英語の辞書を用意してください。				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	Unit 1 会話: (来院) 購読	初診の患者を案内する際の語彙を理解し、表現ができる。 感情移入に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現 (Is this your first visit to this hospital? 等) の練習 ・ Patient Communication: 1 の購読	全体→ 個別→ グループ→ 全体
2	同上	同上	2	同上	同上
3	Unit 2 (初診受付) 購読	患者に登録申込書の記入を手伝う際の語彙を理解し、表現ができる。 患者との距離に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現 (Would you Help me with this form? 等) の練習 ・ Patient Communication: II の購読	同上
4	同上	同上	2	同上	同上
5	Unit 1 Unit 2	医療用語の構成原理を、作業を通して理解する。	2	語幹と接尾辞の連結に注目して図表を作成する。	同上
6	Unit 3 (生活習慣) 購読	患者の飲酒や禁酒など、生活習慣について尋ねることができる。 高齢者患者とのコミュニケーションに関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現 (I'd like to Ask you about your daily Activities. 等) の練習 ・ Patient Communication: III の購読	同上
7	同上	同上	2	同上	同上
8 9	Unit 4 (問診) 購読	賞状について尋ねる際の語彙を理解し、表現できる。 患者を個の人間として扱うことの重要性に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現 (What Seems to the problem? 等) の練習 ・ Patient Communication: IV の購読	同上

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 0	Unit 3 Unit 4	Human body（頭部・人体）の名称を英語で言うことができる。	2	・ Human body（頭部・人体）の名称を英語で表現する。	同上
1 1	Unit 5 （測定） 購読	脈拍、血圧、体重などの測定の際の語彙を理解し、表現することができる。 寛大で、優しく、直観的にわかりえる方法の採用等に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・ 会話と有用表現（Let me Check your pulse. Your blood Pressure is 120 over 86.等） ・ Patient Communication: Vの購読	同上
1 2	同上	同上	2	同上	同上
1 3	Unit 5	医療用語の構成原理を、作業を通して理解する。 Human body（臓器）の名称を英語で言うことができる。	2	・ 語幹と接尾辞（循環器・血液系）の連結に注目して図表を作成する。 ・ Human body（臓器）の名称を英語で表現する。	同上
1 4	同上	同上	2	同上	同上
1 5	Unit 6 全授業を通してのまとめ	検査に必要な語彙を理解し、表現することができる。 授業を振り返る	2	・ 会話と有用表現（We need to Take urine and blood Samples for testhing.等） ・ 授業を振り返る	同上
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
音楽と表現技法	1	30	1年前期	伏見 千悦子(○)
科目のねらい 1. 音・音楽と表現の関連性について、音楽遊びや合唱、創作ダンスなど、さまざまな表現活動を通して理解する 2. 豊かな感性を養うとともに自己表現力を磨き、心身を開放する方法について考察する				
教科書 : 配布プリントを使用します 参考文献 :				
評価方法 : 毎回の取組姿勢、課題提出、実技発表の総合評価とします 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 毎回の講義は、歌ったり踊ったり体を動かす学習内容を多く含みますので、動きやすい服装、靴で受講してください。また、グループワークなどには積極的に参加することを望みます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	音・音楽とところとからだ	2	音楽と心身の関連性について学びます	演習
2	表現が育つ過程	2	表出から表現へのプロセスを学びます	演習
3	日本の音楽—わらべうた(1)	2	粗大運動を含むわらべうたを体験します	演習
4	日本の音楽—わらべうた(2)	2	微細運動を含むわらべうたを体験します	演習
5	さまざまな国の音楽遊び(1)	2	粗大運動を含む音楽遊びを体験します	演習
6	さまざまな国の音楽遊び(2)	2	微細運動を含む音楽遊びを体験します	演習
7	想像力を育む音楽活動	2	物語性のある創作活動について学びます	演習
8	音感を育む音楽活動(1)	2	簡易打楽器を用いリズム遊びを体験します	演習
9	音感を育む音楽活動(2)	2	ミュージックベル等で旋律の演奏をします	演習
10	音感を育む音楽活動(3)	2	トーンチャイム等でハーモニーのある音楽を演奏します	演習
11	言葉と歌唱(1)	2	言語活動と歌唱について学びます	演習
12	言葉と歌唱(2)	2	言語活動と歌唱のための教材を作成します	演習
13	音・音楽と身体表現(1)	2	音・音楽と身体運動の関連性を学びます	演習
14	音・音楽と身体表現(2)	2	音・音楽と身体運動の関連性を学びます	演習
15	音・音楽と身体表現(3)	2	グループごとに発表し、まとめを行います	演習
単位修得認定試験		1	取り組み姿勢、課題提出、実技発表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
心理学	1	30	1年前期	久原 奈緒子（○）
科目のねらい 人間の心の発達と心の動きについて学び、自己と他者を心理学の立場から理解する能力を養う。 心理学の基礎知識、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、人間一般の行動の法則性を理解することを目的とする。				
教科書：心理学理論と心理的支援 岡田 斉（編） 弘文堂（ISBN978-4-335-61072-1） 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 80%、提出物、授業態度、出席状況 20% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書とプリントを用い授業を行う。 講義と演習を適宜おりまぜながら進行する。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	心理学とは何か	2	心理学の分野、分類について	講義
2.3	パーソナリティ理論	4	類型論、特性論、構造論、局所論 パーソナリティの形成要因について	講義、演習 講義
4.5	患者理解	4	心的装置、防衛機制 様々な発達理論について	講義、演習 講義
6	学習心理学	2	古典的条件づけ、道具的条件づけ、動機づけ	講義
7.8.9 .10	心理査定	8	アセスメントについて 性格検査、描画検査、知能検査 観察法、面接法 プロフィール作成	講義 講義、演習 講義 演習
11.1 2.13. 14	発達心理学	8	胎児期、乳児期の発達の特徴について 幼児期の発達の特徴について、スクイグル法 児童期、青年期の発達の特徴について 成人期、老年期の発達の特徴について	講義 演習 講義 講義
15	グループワーク	2	KJ法（説明、制作、発表）	演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
コミュニケーション	1	30	1年前期	石塚誠之（○）
科目のねらい 人間関係の基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションやグループダイナミクスの基礎について学ぶ また、コミュニケーションに関する自己理解を深めた上で、他者とコミュニケーションをとるための表現・傾聴技法について学び、円滑なコミュニケーションを生む要因について理解を深める				
教科書： 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 言語的・非言語的なコミュニケーションなど心理学的を背景とし基礎知識について学んだ上で、関係の一般的あり方や専門的な援助関係の基礎について、ロールプレイ等の体験を通じて、理解を深める また、医療現場や日常生活における事例を通じて相手に配慮した関わりについて考える				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	2	コミュニケーションとは何か、その意味について考える	講義 演習
2	コミュニケーションとは	2	日常生活での言語・非言語的コミュニケーションについて考える	
3	自己理解とコミュニケーション①	2	社会スキル尺度・ジョハリの窓等を用い、自己理解を深める	
4	自己理解とコミュニケーション②	2	日常生活におけるコミュニケーション行動について考える	
5	他者理解とコミュニケーション	2	他者を理解し、コミュニケーションを円滑にする方法を知る	
6	話し方のコミュニケーション技法	2	コミュニケーションにおける表現技法について学ぶ	
7	聞き方のコミュニケーション技法①	2	コミュニケーションにおける傾聴技法について学ぶ	
8	コミュニケーション技法の活用	2	様々なコミュニケーション技法を用いてロールプレイを行う	
9	コミュニケーションスキルトレーニング①	2	アサーションの理論について学ぶ	
10	コミュニケーションスキルトレーニング②	2	アサーションの技法について学ぶ	
11	集団活動とコミュニケーション①	2	集団活動を通して、コミュニケーションについて考える	
12	集団活動とコミュニケーション②	2	集団活動を通して、円滑なコミュニケーションに必要な要因を知る	
13	看護コミュニケーション事例検討①	2	事例を通じて、患者の気持ちを受け止める方法を知る	
14	看護コミュニケーション事例検討②	2	事例を通じて、患者の気持ちに配慮した関わりについて知る	
15	授業のまとめ	2	授業でまとめたコミュニケーションのポイントについて確認する	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
社会学	1	30	1年前期	鄭 斗鎬(○)
科目のねらい 社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する 最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する				
教科書 : 新・社会福祉講座3 社会理論と社会システム第3版 参考文献 :				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 社会学に関連する諸議論を整理することと、社会学に関する重要な養護や概念を理解する				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	社会学	2	社会学とは何かを紹介	講義
2	現代社会の理解(1)	2	社会システムと社会システムの安定性	講義
3	現代社会の理解(2)	2	法と社会システム、法の疎遠性・普遍性・不変性	講義
4	現代社会の理解(3)	2	経済と社会システム・交換と市場	講義
5	現代社会の理解(4)	2	社会変動とは何か	講義
6	現代社会の理解(5)	2	人口からみた社会変動	講義
7	生活の理解(1)	2	生活のとらえ方	講義
8	生活の理解(2)	2	家族について	講義
9	生活の理解(3)	2	地域について	講義
10	人と社会の関係(1)	2	社会的行為	講義
11	人と社会の関係(2)	2	社会的役割	講義
12	人と社会の関係(3)	2	社会集団と組織	講義
13	人と社会の関係(4)	2	社会的ジレンマ	講義
14	人と社会の関係(5)	2	社会関係資本と社会的連帯	講義
15	社会問題の理解	2	社会問題のとらえ方と日本社会と社会問題・共生社会	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時間	講師（○＝実務経験者）
倫理学	1	30	1年前期	佐藤郁恵（○）
科目のねらい 倫理学の歴史と特徴的な考え方を理解し、学校や医療現場での倫理的な諸問題を学ぶ。 生の始まりと終わりに関わる倫理的な課題やアプローチについて考察する。				
教科書：系統看護学講座 別巻 看護倫理（医学書院）、毎回講義資料を用意する。 参考文献：授業の中で参考文献を紹介する。				
評価方法：レポート 20 点及び最終試験 80 点を総合して評価を行う。 評価認定：優（80 点以上）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（60 点未満）の 4 段階 評価とする。				
授業の進め方 学生の関心事や経験した出来事を倫理的視点で分析・解釈して、倫理行為のあり方を検討 していきます。皆さんの価値観の違いを尊重しながら意見交換をしていきます。				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	2	講義内容の確認、倫理とは何か	講義
2	倫理思想①	2	ギリシア思想と倫理	講義
3	倫理思想②	2	西洋思想と倫理	講義
4	倫理思想③	2	東洋思想と倫理	講義
5	生命倫理①	2	生命倫理の歴史	講義
6	生命倫理②	2	生命倫理の原則、 インフォームドコンセント レポート課題を提示します	講義
7	看護倫理①	2	看護倫理の歴史、看護の倫理原則	講義
8	生命倫理②	2	生をめぐる倫理	講義
9	生命倫理④	2	死をめぐる倫理	講義
10	生命倫理⑤	2	先端医療と倫理	講義
11	生命倫理⑥	2	レポート発表・意見交換	演習
12	生命倫理⑦	2	レポート発表・意見交換	演習
13	生命倫理⑧	2	レポート発表・意見交換	演習
14	看護倫理②	2	アドボカシーの概念、ケアの倫理	講義
15	看護倫理③	2	倫理的課題へのアプローチ	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
公衆衛生学	1	15	1 年前期	都 築 俊 文(○)
科目のねらい 公衆衛生活動の特徴は、主に特定の人間集団を対象とするものであり、その目的は疾病 4 の予防のみならず、健康の維持・増進を図ることにある。このような特徴を理解するとともに、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける。				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする				
授業の進め方 テキスト及びその都度配布する資料中心に進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	公衆衛生とは	2	公衆衛生の特徴、公衆衛生と健康	講義
	プライマリーヘルスケア		義務としての健康から権利として	講義
2	健康と環境(1)	2	地球環境問題(地球環境問題、水・空気・土壌)	講義
	健康と環境(2)		食品管理・家庭用品、ごみ・廃棄物など	講義
3	疫学と健康指標	2	健康と病気の違い、健康指標	講義
	ヘルスプロモーション(HP)		新しい公衆衛生学としての HP	講義
4	社会保障制度	2	体制と制度、必要性など	講義
	医療保険、介護保険制度		その概要、少子高齢化との関係	講義
5	公衆衛生と国際協力	2	グローバル化する公衆衛生	講義
	地域保健		保健所と地域保健センターの役割	講義
6	対象別公衆衛生(1)	2	母子保健、成人保健、老人保健	講義
	対象別公衆衛生(2)		精神保健、難病保健	講義
7	場面別公衆衛生	2	学校保健、産業保健、災害保険	講義
	感染症対策		予防の基礎知識、新興・再興感染症	講義
8	健康危機管理	1	危機管理の概要、公衆衛生活動との関連	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
解剖生理学 I	1	15	1 年前期	佐藤 淳(○)
科目のねらい 身体の構造と機能の概論を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定単: 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする				
授業の進め方 板書を主体に、DVD(ビデオ)、POWERPOINT を用いてわかりやすい授業を心がけます 必要に応じ資料を作成し配布します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	人体の構造と機能、人体とは	1	・人体の構造と機能 ・解剖学と生理学の歴史など	講義
2	人体の細胞	2	・細胞の構造と機能 ・エネルギーの生成	講義
3	人体の組織	2	・細胞の増殖、染色体、各組織	講義
4	構造と機能からみた人体	2	・構造からみた人体	講義
5	構造と機能からみた人体	2	・構造からみた人体	講義
6	構造と機能からみた人体	2	・機能からみた人体	講義
7	構造と機能からみた人体	2	・機能からみた人体	講義
8	構造と機能からみた人体	2	・体液とホメオスタシス	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
解剖生理学Ⅱ	1	30	1年前期	後山恒範(○)加藤法喜(○)賀来亨(○)
科目のねらい 生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する				
教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100%（後山 40% 加藤 30% 賀来 30%） 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書、DVD、パワーポイント、資料配布で進めます				
単元： 骨・筋系		担当講師： 後山 恒範		
単元： 循環器系		担当講師： 加藤 法喜		
単元： 呼吸器系		担当講師： 賀来 亨		

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	身体の支持と運動 骨格・筋肉系	10	人体の骨格筋の構造と機能 筋肉系の分類	講義
6 7 8 9 10	血液の循環とその調節 循環器・リンパ系	10	心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環の 構造、血液の循環の調節、胎児循環 リンパとリンパ管	講義
11 12 13 14 15	呼吸のはたらき 呼吸器系	10	呼吸器系の構造と機能	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
解剖生理学Ⅲ	1	30	1年前期	一木崇宏(○)大島淳二郎(○) 河田哲也(○) 島村佳一(○)
科目のねらい 生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する				
教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100%（一木 25% 大島 25% 河田 25% 島村 25%） 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書を中心にスライドを活用して進めます				
単元：消化器系	担当講師： 一木崇宏	単元：内分泌・代謝系	担当講師： 島村佳一	
単元：腎・泌尿器系	担当講師： 河田哲也	単元：血液・免疫系	担当講師：大島淳二郎	

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	栄養の消化と吸収 消化器系	8	・口・咽頭・食道の構造と機能 ・腹部消化管の構造と機能 ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ・腹膜	講義
5 6 7 8	体液の調節と尿の生成 腎・泌尿器系	8	・腎臓の構造と機能 ・排尿路 ・体液の調節	講義
9 10 11 12	内臓機能の調節 内分泌・代謝系	8	・自律神経の構造と機能 ・内分泌系による調節 ・全身の内分泌腺と内分泌細胞 ・ホルモン分泌の調節	講義
13 14 15	血液のはたらき 血液系 外部環境からの防御 免疫系	6	・血液の組成と機能 ・生体の防御機構 ・体温とその調節	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
病理学総論	1	15	1年前期	森山 隆則（○）
科目のねらい 病気の原因と病理学的な変化について学び疾病の特徴や進行の過程を理解する				
教科書： 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書に準じた内容について、教科書はもとより理解の助けになる参考データ 図表をまとめたパワーポイントを使用し、双方向的な授業を実施します 理解度の チェックのため単元ごとに必ず質問し確認します				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	病理学で学ぶこと	1	病気の原因	講義
2	細胞・組織の障害と修復	2	細胞損傷と適応、組織の修復と創傷治癒	
3	循環障害	2	循環血液量の異常と閉塞性の障害について	
4	炎症と免疫・感染症	2	炎症とアレルギー、免疫不全および自己免疫疾患について	
5	代謝障害	2	脂質・たんぱく質・糖質の各物質代謝異常について	
6	老化と死	2	老化のメカニズム	
7	先天障害と遺伝子異常	2	先天異常の種類と新生児マスキリーニングについて	
8	腫瘍	2	腫瘍の定義分類、発生病理および診断と治療について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
生化学	1	30	1 年前期	佐藤 淳(○)
科目のねらい 人体の構成成分である化学物質の性状とその代謝について知り、生命現象のしくみを化学的に理解する				
教科書 : わかりやすい 生化学 疾病と代謝・栄養の理解のために ノーベルヒロカワ 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする				
授業の進め方 生理学、疾患との関連を交えながら関心がもてるよう進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2	生化学を学ぶための基礎知識	4	1. 生化学とは 2. 生化学を学ぶための基礎的知識 3. 細胞の構造と機能 4. 生体で起きている科学反応	講義
3 4	タンパク質の性質	4	1. タンパク質の分類 2. 構成するアミノ酸の種類 3. タンパク質の高次構造	講義
5 6	酵素の性質と働き	4	1. 酵素とは 2. 酵素の特性 3. 酵素の種類	講義
7 8	生体内における糖質の代謝	4	1. 糖とは何か 2. 糖の分類 3. 糖質は体の重要なエネルギー源 4. グルコースとグルコーゲン	講義
8 9	生体における脂質の代謝	4	1. 脂質の種類と科学的性質 2. 脂質の代謝 3. リポタンパク質と脂質の代謝	講義
9 11	生体内におけるアミノ酸及びタンパク質の代謝	6	1. 脱アミノ酸 2. 脱炭酸反応 3. 尿素回路 4. 糖新生	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
			5. エネルギー代謝 6. 分岐鎖アミノ酸の代謝 7. 合流アミノ酸の代謝 8. オキシアミノ酸の代謝 9. 芳香族アミノ酸	講義
1 2 1 3	生体内における核酸の役割	2	1. 2種類の核酸と構造 2. 核酸はコピーされる 3. タンパク質を作るための核酸 4. モノ及びジヌクレオチド	講義
1 4 1 5	全体のまとめ	2	まとめの後質疑応答	
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
栄養学	1	15	1 年前期	上坂 真智子(○)
科目のねらい 生命維持に必要な栄養素とそのエネルギー代謝について学び、健全な生命活動を営むための基礎的知識を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能③ (医学書院) 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験(90%)、平常点 (10%) 平素の受講態度等を加味する。 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点以上)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする。				
授業の進め方 教科書と配布資料を中心に進める。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	栄養学と看護	2	1. 栄養を学ぶということ 2. 保健・医療における栄養学 3. 看護と栄養 4. 栄養の概念	講義
2	栄養素の種類と働き①	2	炭水化物 (糖質、食物繊維)	講義
3	栄養素の種類と働き②	2	脂質	講義
4	栄養素の種類と働き③	2	たんぱく質	講義
5	栄養素の種類と働き④	2	1. ビタミン 2. ミネラル	講義
6	水とエネルギー	2	1. 水の栄養的意義 2. エネルギー代謝	講義
7	食物の摂取と消化・吸収	2	1. 食物の摂取 2. 消化・吸収	講義
8	ライフステージと栄養	1	小児から高齢期における栄養の特徴	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
薬理学	1	30	1年前期	山崎晃憲（○）
科目のねらい 薬の効きかたと理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法を学ぶ 薬理学全般における基礎的知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ 薬物医療事故の事例から看護師の役割を学び深める				
教科書：わかりやすい薬理学 スーベルヒロカワ 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する。また、医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、コンプライアンスの重要性を理解します。各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説します。各項目に生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学などの関連分野と組み合わせながら授業を進めます。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	総 論	2	1. 薬理学の概念 2. 小児、妊婦、高齢者の薬物治療 3. 医薬品の管理 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
2 3	末梢神経系作用薬	4	1. 自律神経作用薬 2. 筋弛緩薬 3. 局所麻酔薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
4 5	循環器系作用薬	4	1. 抗高血圧薬(降圧薬) 2. 心臓作用薬 3. 腎臓作用薬 4. 血液・造血器作用薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
6 7	中枢神経系作用薬	4	1. 麻酔 2. 疼痛 3. 不眠症 4. 神経系、気分障害、統合失調症 5. てんかん 6. パーキンソン病	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
6 7			7. 認知症、アルツハイマー病 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
8 9	炎症免疫系作用薬	4	1. 抗炎症薬 2. 免疫関連薬 アレルギー、関節リウマチ 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
10 11	呼吸器系作用薬	4	1. 気管支喘息 2. 呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3. 慢性呼吸不全 4. 睡眠時無呼吸症候群 5. びまん性汎細気管支炎 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
12 13	消化器系作用薬	4	1. 胃炎、胃、十二指腸潰瘍 2. 食欲不振、消化不良 3. 嘔吐 4. 便秘、下痢 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
14	ホルモン系・生殖器系 作用薬	2	1. ホルモン系作用薬 糖尿病、甲状腺機能亢進症・低下症 骨粗鬆症 2. 生殖器系作用薬 前立腺肥大 陣痛誘発 不妊症 受胎調節の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
	抗感染症薬		1. 抗感染症薬 2. 消毒薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
15	抗悪性腫瘍薬 漢方薬	2	看護上の注意点	講義 演習
	薬の取り扱いと医療事故		1. 薬の取り扱いと医療事故 2. 事故判例から看護師の役割をまとめる	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
微生物学	1	30	1年前期	澤田 幸治(○)
科目のねらい 微生物の種類と特徴を理解する 感染拡大を防ぐための病原微生物の正しい滅菌、消毒法を理解する 病原微生物が引き起こす感染症の症状とその予防法について理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進④ 医学書院 参考文献 : 特にありません 必要に応じてプリントを配布します				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方: 板書、スライド(パワーポイント)、プリントを併用して基本的事項を解説します。 ノートを取り教科書を参照すること。毎回の授業の復習ため、小テストを実施します。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	微生物学総論	8	1. 病原微生物の種類と特徴 2. 常在細菌叢 3. 微生物の増殖と病原性因子 4. 微生物の感染機構 5. 感染の成立から発症・治癒まで 6. 感染症の種類 7. 感染症法	講義
5 6	感染症に対する生体防御機構	4	1. 自然免疫のしくみ 2. 獲得免疫のしくみ	
7 8	感染症の予防	4	1. ワクチンの種類と予防接種 2. 滅菌と消毒	
9 10 11 12 13 14 15	感染症各論	14	1. 日和見感染、院内感染症 2. 消化器感染症と食中毒 3. 尿路感染症 4. 性感染症 5. 肝炎、 6. 微生物と腫瘍 7. 針刺し感染症 8. 呼吸器感染症 9. 発疹性感染症 10. 母子感染症 11. 小児感染症 12. 脳・神経系感染症 13. 高齢者感染症	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
病態と治療Ⅰ	1	30	1年前期	後山恒範(○)加藤法喜(○)賀来亨(○)
科目のねらい 疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学③ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100%(後山 40% 加藤 30% 賀来 30%) 評価認定： 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 解剖生理学の確認をしながら、主たる臨床で関わる代表疾患を中心に講義をします				
単元： 運動器系		担当講師： 後山 恒範		
単元： 循環器系		担当講師： 加藤 法喜		
単元： 呼吸器系		担当講師： 賀来 亨		

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	運動器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 運動器の構造と機能 ・骨、関節、神経と筋肉、腱と靱帯 2. 症状とその病態生理 ・疼痛、形態・関節の異常、神経障害 3. 診断・検査と治療・処置 ・診察・診断の流れ、画像検査、保存療法、理学療法、手術療法、義肢と装具 4. 運動器疾患の理解 ・外傷性・内因性の運動器疾患	講義
6 7 8	循環器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 循環器の構造と機能 ・心臓、血管、自律神経、液性因子 2. 症状とその病態生理 ・胸痛、呼吸困難、浮腫、失神、ショック 3. 検査と治療 ・診察と診断の流れ、心電図、心エコー 心臓カテーテル、血行動態モニタリング	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
9 10	循環器疾患の病態と 検査治療処置		心臓核医学検査 ・内科的治療、外科的治療 4. 循環器疾患の理解 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症 大動脈系疾患	講義
11 12 13 14 15	呼吸器疾患の病態と 検査治療処置	10	1. 呼吸器の構造と機能 ・呼吸器の構造、呼吸の生理 2. 症状とその病態生理 ・自覚症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難） ・他覚症状（チアノーゼ、ばち指、呼吸の異常） 3. 検査と治療・処置 ・診察と診断の流れ、喀痰検査、内視鏡検査、 生検、呼吸機能検査 ・吸入・酸素療法、呼吸理学療法、気道確保 ・胸腔ドレナージ ・在宅酸素療法（HOT） 4. 呼吸器疾患の理解 ・感染症、間質性肺疾患、気道疾患 肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
病態と治療Ⅱ	1	30	1年前期	一木 崇宏(○)大島淳二郎(○) 河田哲也(○) 島村佳一(○)
科目のねらい 疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ アレルギー・膠原病感染症 成人看護学⑪ 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100%(一木 40% 大島 20% 河田 20% 島村 20%) 評価認定： 優(80点以上)、良(70～75点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 解剖生理学の確認をしながら、臨床で主に遭遇する代表疾患を中心に進めます				
単元： 消化器系	担当講師：一木 崇宏		単元：内分泌代謝系	担当講師：島村 佳一
単元： 腎・泌尿器系	担当講師：河田哲也		単元：血液・免疫系	担当講師：大島淳二郎

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	消化器疾患の病態と 検査治療処置	12	1. 消化器の構造と機能 ・食道、胃十二指腸、小腸大腸、直腸 肛門 2. 症状とその病態生理 嚥下困難、嘔吐、吐血、下血、下痢、便秘 腹水、黄疸 3. 検査と治療 ・診察と診断の流れ ・糞便検査、肝生検、内視鏡検査 放射線検査、超音波検査 ・薬物療法、栄養・食事療法、放射線療法 4. 疾患の理解 ・食道、胃・十二指腸疾患、腸腹膜疾患 肝臓・胆嚢疾患、膵臓疾患、急性腹症	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	腎・泌尿器疾患の病態と 検査治療処置	6	1. 腎・泌尿器の構造と機能 ・腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器 2. 症状とその病態生理 ・尿の異常、排尿症状、浮腫、脱水 循環器・血液異常、尿毒症、腫脹、腫瘍 3. 検査と治療・処置 ・病歴聴取と診察法 ・尿検査、腎機能検査、内視鏡検査 生検、性・生殖機能検査 ・手術療法、がん治療、排尿管理 透析療法、腎移植 4. 疾患の理解 ・腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 糖尿病性腎症	講義
10 11 12	内分泌・代謝疾患の病態 と検査治療処置	6	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能 ・視床下部、下垂体、甲状腺 ・ホルモン機能 2. 症状とその病態生理 ・体重変化・身長異常、容貌変化 3. 治療検査 ・内分泌代謝疾患の検査 ・インスリン療法、薬物・食事・運動療法 4. 疾患の理解 ・巨人症、クッシング症候群、尿崩症 橋本病、バセドウ病、糖尿病 脂質尿酸異常	講義
	アレルギー・膠原病疾患 の病態と検査治療処置		1. 自己免疫疾患とその機序 2. 症状とその病態生理 ・関節痛、レイノー現象、筋力低下 3. 検査と治療 ・膠原病の診断までの流れ ・抗核抗体、免疫グロブリン、筋生検 ・薬物療法（副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制 薬抗リウマチ薬） 4. 疾患の理解 ・関節リウマチ、エリテマトーデス、強皮症 シェーグレン症候群、ベーセツト病	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	血液・造血器疾患 の病態と検査治療処置	6	1. 血液の生理と造血のしくみ ・血液の成分と機能、造血のしくみ 2. 検査・診断と症候・病態生理 ・貧血、発熱、リンパ節腫脹、出血傾向 ・骨髄穿刺・生検、染色体遺伝子検査 3. 疾患と治療の理解 ・再生不良性貧血、紫斑病、血友病 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 ・血液型と輸血療法 化学療法、造血幹細胞移植	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
リハビリテーション	1	15	1 年前期	富樫英則（○）
科目のねらい リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける				
教科書： 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 参考文献： 都度紹介				
評価方法： 筆記試験 100% 評価認定： 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする				
授業の進め方 各看護学に活用できる内容として講義をします 介助演習もします				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	リハビリテーションの定義と概念	2	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションの対象と制度	講義
	疾病・障がい・生活機能の分類		1. 障害者の分類と構造 国際疾病分類(ICD) 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF) 客観的障害と主観的障害	
2	リハビリテーションの分類	2	1. 医学的リハビリテーション 2. 教育的リハビリテーション 3. 職業的リハビリテーション 4. 社会的リハビリテーション	講義
	リハビリテーション医療の提供		1. リハビリテーション医療システムとチーム医療 連携職種 他職種連携のあり方	
3	運動器系の障害とリハビリテーション	2	1. 廃用症候群を防ぐには 2. 積極的リハビリテーションプログラム 3. 運動の種類	講義 プレゼンテーション
4	検査手技	2	1. 筋萎縮の比較 2.MMT 3.筋肉増強の3大条件 4.アンダーソン改定基準 5.関節可動域 6.ADL評価	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
5	中枢神経系の障害と リハビリテーション	2	1. 中枢神経系麻痺の診方 2. 嚥下・言語障害のリハビリテーション	講義
6	呼吸・循環器系と リハビリテーション	2	1. 虚血性心疾患患者のリハビリテーション 2. 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション	講義
7	トランスファーの 介助演習	3	1. 車椅子からベット ベットから車椅子 2. 他動的関節可動域運動	演習 (実技)
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
看護学概論	1	30	1年前期	野口みどり（○）
科目目的：看護の概念、目的、役割と機能を理解し、看護実践の基盤となる人間観、健康観を培う 目標：1. 看護の歴史的変遷を通して看護の概念を理解する 2. 健康について多面的にとらえることができ、看護者としての健康観を育成する 3. 看護の対象である人間について学び、看護の対象としての人間を統合的に理解する 4. 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する 5. 看護理論の発展過程を学び、看護の理解を深める 6. 職業倫理としての看護倫理がどのように確立できたかを理解する				
教科書：系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版 参考文献：フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版 ナーシング・グラフィカ 看護概論 基礎看護学① メディカ出版				
評価方法：筆記試験100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 教科書、配布資料をもとに授業を進めていきます 2. グループワークがありますので、積極的に参加してください グループワーク終了後はレポート提出ありますので、期限を守ってください 3. 事前学習では新訂版 実践に生かす看護理論19を熟読してください				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	看護の 概念	看護の歴史的変遷を通して、看護の概念・役割を理解する	4	1. 看護とは 1) 看護の変遷 (1) 看護の原点 (2) 看護の語源 (3) 看護の歴史 (4) アメリカにおける看護学の発展 2) 看護の定義 (1) 看護の理論家にみる看護の定義 (ナイチンゲール、ヘンダーソン) (2) 看護職能団体による看護の定義 3) 看護覚え書 抄読会 発表	講義 DVD 視聴 看護論シリーズ グループワーク

	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9 10	看 護 の 対 象	看護の対象を生活と 健康の視点からとら える 人間の暮らしを理解 する	4	1. 人間の特徴 1)生物学的基盤 2)ライフサイクル 3)社会の中での存在 4)基本的欲求 5)統合された存在 6)人間と環境 2. 生活概念 1)生活とは、日常性とは 2)日常生活とは、生活を整えるとは 3)ヘンダーソンの看護から考える 3. 健康障害を持つ人の特徴 1)患者とは 2)患者の心理、家族の心理 3)健康障害とは 4)病人役割 4. 健康障害にある対象の心理反応 1)ストレスとコーピング 2)QOL 3)危機（発達危機、状況危機） 4)終末期の心理	講義
11 12	看 護 の 機 能 と 役 割	看護の機能と役割を 理解する	4	1. 看護の機能、役割 1)看護業務と法律 (1)保助看法、医療法 (2)看護の機能 (3)保健・医療・福祉と看護 2. 看護活動の場とその場における看護 の役割 3. 保健・医療・福祉における看護の役 割 4. 対象の権利と尊厳	講義
		継続看護の必要性和 意義を理解する		1. 継続看護の意義 2. 継続看護の必要性	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	看護倫理	職業倫理としての看護倫理がどのように確立してきたかを理解する	3	1. 現代社会と倫理 1)なぜ倫理について学ぶのか 2)倫理、道徳、法 3)現代の医療・看護と倫理 4)職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1)患者の権利とインフォームドコンセント 2)現代医療におけるさまざまな倫理的問題 3)医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 1)看護の本質としての看護倫理 2)医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3)倫理的課題に取り組むためのしくみ	講義
	看護理論	看護理論の発展過程を学び看護の理解を深める	3	1. 看護理論の発展過程 1)理論の範囲 (1)広範囲 (2)中範囲 (3)小範囲 2) 看護モデルの概要 (1)セルフケアモデル オレムのセルフケア理論 (2)ニード、問題思考の理論 ナイチンゲール ヘンダーソンの看護理論 (3)相互作用モデル トラベルビーの理論 (4)システムモデル (5)わが国の看護モデル ①科学的看護論 ②生活統合体モデル ③日本看護協会の記述	講義 DVD 視聴 看護論シリーズ 事前学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
共通援助技術	1	15	1年 前期	黒田いく子(○)藤原未央(○)
科目目的 : すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術を支えるために必要な知識・技術・態度を身につける 科目目標 : 1. 安全・安楽・適切な看護技術を習得する必要性を理解する 2. 看護における安全確保の目的・意義を理解する 3. 看護における観察・記録の目的・意義・方法を理解する 4. 感染防止の意義・対策を理解し、基本的な防止のための技術を習得する 5. 看護における学習支援の概要を理解する 6. 看護におけるコミュニケーションの基本を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版社 参考文献 : 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社				
評価方法 : 筆記試験100% (黒田20%、藤原80%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方: 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう 5. 学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう				
単元: 感染防止			担当講師: 黒田いく子	
単元: 技術の概念・安全確保他			担当講師: 藤原未央	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術の概念	看護における技術の意義・特徴を理解する 看護技術の原理原則に基づき、根拠を持って実施する重要性を理解する	2	1. 技術とは 2. 看護における技術 3. 看護技術の特徴 4. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的 2) 原理・原則 3) 安全・安楽 4) 実施	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		適切な看護技術の習得に必要な要素を理解する		5) リフレクション 5. これから学んでいく看護技術 1) 科学的根拠に基づく看護 (EBN)	
2	安全確保	安全の意義と確保するための方法を理解する	2	1. 安全確保の基礎知識 2. 主な医療事故と予防策	講義
3	観察・記録	看護における観察の目的・意義・方法 看護記録の目的・意義・方法を理解する	2	1. 看護における観察 1) 観察の目的と意義 2) 観察の方法と内容 (1) 主観的情報と客観的情報 (2) フィジカルアセスメント (3) ヘルスアセスメント 2. 看護における記録 1) 看護記録の目的と意義 1) 看護記録の法的規定 3. 記載・管理における留意点 4. 看護記録の構成 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 4) 看護サマリー	講義
4	コミュニケーション技術	患者－看護師及び医療チームメンバー間の関係構築・促進のためのコミュニケーションのあり方を理解する	2	1. 医療におけるコミュニケーションの意義・目的・特徴 2. 患者－看護師関係の構築の基本と効果的なコミュニケーション技術 1) 傾聴・受容・共感 2) アサーティブ 3) コーチング 4) 治療的コミュニケーション 3. 看護専門職としてコミュニケーション能力を高めるために 1) ジョハリの窓 2) プロセスレコード	講義
5	学習支援技術	看護における学習支援の目的・意義を理解する 様々な場・健康状態・対象における学習支援の概要・	2	1. 看護における学習支援とは 1) 看護の中にある学習支援 2) 教育・指導から学習支援へ 3) ヘルスプロモーション 4) 学習支援の対象と場面 2. 学習支援に活用する理論	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		特徴を理解する		1) セルフケア理論 2) アンドラゴジー 3) 変化のステージモデル 4) 自己効力感 5) エンパワメント	
6 7	感染防止	感染と感染予防策の概要を理解する 感染防止における看護師の責務と役割を理解する 医療器材の管理・無菌操作の重要性を理解する 感染性廃棄物の処理方法を理解する 医療現場における組織的な予防対策を理解する	3	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 1) 保管方法 2) 滅菌物の取り扱い（DVD） 6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 感染対策の基礎知識と実際 1) カテーテル関連血流感染 2) 針刺し事故	講義 DVD
8		スタンダードプリコーションに基づいた感染防止対策技術を習得する	2	1. 学内実習 1) 項目 衛生学的手洗い・滅菌手袋の装着・ガウンテクニック 2) 方法 (1)事前課題 援助計画書の熟読・DVD 視聴 (2)学内実習の進め方 ①デモンストレーション ②援助計画書に沿った技術練習・評価 ③リフレクションシートの記載	DVD 学内実習 デモンストレーション

< 事前課題 >

単元	課題内容
感染防止	「微生物学」で学習した以下の内容を復習する 1)感染成立のしくみ 2)標準予防策の目的と方法 3)感染経路別予防策の目的と内容
コミュニケーション技術	レポート課題（A4用紙1枚：講義の前日までに提出） ヘンダーソンの「10. 意思の伝達・欲求・気持ちの表現」を読み、「①コミュニケーションの欲求が充足するとはどういうことか、②コミュニケーションの欲求を充足させるために、看護師はどうあるべきである」と述べているか、理解した内容を整理する
学習支援技術	レポート課題（A4用紙1枚：講義の前日までに提出） ヘンダーソンの「14. 患者が学習するのを助ける」を読み、ヘンダーソンが「①学習支援の目的、②学習支援の在り方、③看護師の役割・責任についてどのように述べているのか内容を整理する

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
生活援助技術Ⅰ	1	30	1年前期	櫻井美奈子(○)齊藤まどか(○)
科目目的：人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身につける 目標：1. 食事・栄養、排泄の意義と基礎的な知識・技術・態度について理解する 2. 対象の栄養状態、排泄状態のアセスメントの方法を理解する 3. 食事・栄養、排泄に関わる援助方法を習得する 4. 対象を尊重した態度で援助技術が実践できる				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 参考文献：演習・実習に役立つ基礎看護技術 HIROKAWA ナース・グラフィック 基礎看護学③ 基礎看護技術 MC メディカ				
評価方法：筆記試験100%（櫻井50% 齊藤50%） 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 1. 各教科書、学内実習要項、事前に配布された資料は忘れずに毎回準備してください 2. 事前課題で取り組んだ内容をもとに、グループワーク、アセスメントへとつなげていく学習になります。個人で事前課題に取り組み、グループワークでは個々人の相違を見つけるためにも積極的に意見交換をしましょう 3. 食事・栄養、排泄に関する基礎知識が学べたら、次は実際に食事介助・口腔ケア、排泄援助の実習を行います 4. 学内実習後は援助者として、援助された者として感じたことを十分に振り返って、食事援助技術・排泄援助技術として大切にしたいことのまとめ学習をします				
単元：食事援助技術			担当講師：櫻井美奈子	
単元：排泄援助技術			担当講師：齊藤まどか	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	食事援助の基礎知識	人間にとって食事・栄養とは何かを理解する	4	1.食事・栄養の意義 1)生理的な意味 2)心理的な意味 3)社会的な意味 2.食欲に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態「楽しく食べられる満足感の条件」食事の学習内容	講義 グループワーク 発表

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				意義について、生理的、心理的、社会的側面から考えてみます	
3 4	食事援助の基礎知識	栄養・食事に関するアセスメントの方法を理解する 経口的に栄養摂取が行いにくい場合の基礎知識を理解する	4	1. 栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント (基本的欲求の未充足状態：食事を阻害する要因) 1) 栄養状態 2) 水分電解質バランス 3) 食欲 4) 摂取能力 5) 食生活変更の必要性・患者の認識、行動 2. 医療施設で提供される食事 3. 摂食・嚥下訓練援助の基礎知識 1) 摂食・嚥下のメカニズム 2) 実施前の評価	講義
5	食事援助の実際	安全で快適な食行動が取れるよう、食事援助の基礎知識を理解する	2	1. 援助の基礎知識 1) 食欲不振の対象の援助 2) 視覚障害のある対象の援助 3) 体位・体動制限のある対象の援助	講義 DVD視聴 「食事介助」デモンストレーション
6 7		食事介助・口腔ケアの基本的援助方法を習得する 対象を尊重した食事援助技術の実際を理解する	4	2. 援助の実際：患者の状態に応じた食事介助と口腔ケアの基本技術を実施する 1) 座位とフーラー位での食事介助・フーラー位で口腔ケア(歯磨き・含嗽)を根拠に基づいた方法・手順で学習する 2) 他者に食べさせてもらう体験を通して、援助を受ける対象を身体的・心理的側面から考える * 看護師役・患者役の双方をそれぞれ体験する 3. 学内実習後のリフレクション (グループワークと発表) 1) 援助者・患者役からの学びを話し合う ・自立している時ではイメージしにくい他者に食べさせてもらう体験から、感じとったことを出し合い、看護者として大切にしていきたいことをまとめて発表する 2) 実習後の課題 (1) 模擬患者役としての評価を記載 (2) リフレクションシートを記載	学内実習 グループワーク発表 課題提示

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8	非経口的 栄養摂取 の援助	非経口栄養摂取 の概略について 理解する	2	1.経管栄養 1)援助の基礎知識(種類と留意点) 2.中心静脈栄養 2)合併症の予防・発見	講義 DVD 視聴 「経管栄養」

事前課題と内容の視点

1. フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き VI 食事、VII どんな食べ物を？ を読み、
看護の対象である病人の何を注意深く観察するのか、食べられるよう看護師はどのような
なことに創意工夫を努めなければいけないか記載されていればよい。
2. ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの「2.患者の飲食を助ける」を読み、
「食べさせてもらうこと」「食べさせること」の中にどのような心理的要因があるのか記載
されていればよい。
3. 身体的・心理的・社会的な面から見た食事の意義・必要性が記載されていればよい。

講義開始 3 日前に 1～3 内容の学習ノートを提出

- 事後課題
1. 学内実習後、患者役として看護師役から援助を受けた感想と振り返りを記載する（模擬患
者としての評価）。
 2. 学内実習後のリフレクションから、対象への配慮・尊重がどのような行動になるとよいかを考え
今後の自己の課題を行動目標で明記しているか確認します(リフレクションシート)。

実習終了 2 日後に提出

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9	自然排尿 および自 然排便の 基礎知識	排泄の意義を理 解する 排泄のメカニズ ムが理解する	2	1.自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義(生理的・心理・社会的な意味) 2.排泄に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態 「排泄行動を実行できる能力とはどのよう な条件が必要か」自分自身の排泄行動から 考えてみます 4. 排泄器官の機能と排泄メカニズム 1)排尿 2)排便	講義 グループワーク 発表 講義
10		状態に応じた援 助を決定するた めのアセスメントの方 法を理解する	2	5.観察とアセスメント(基本的欲求の未充足状態 正常な排泄を阻害する要因) 1)排尿のアセスメント 2)排便のアセスメント 3)移動動作のアセスメント 4)心理・社会的状態 のアセスメント	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11	排泄援助 の実際	自然排尿・排便 援助の基礎的知 識を理解する	2	1.自然排尿および自然排便援助の基礎知識 1)ポータブルトイレ・トイレでの排泄援助 2)床上排泄援助 3)おむつを用いた排泄援助	DVD 視聴 「排尿・排便 の援助」 デモンストレーショ ン
12 13		排泄介助の基本 的援助方法を習 得する 対象の尊厳を保 った援助技術の 実際を理解する	4	2.援助の実際：臥床中の対象への尿・便器 用いた床上排泄技術を実施する 1)床上での排尿・排泄援助を根拠に基づい た方法・手順で学習する 2)床上排泄の模擬体験を通して、援助を受 ける対象を身体的・心理的側面から考え る * 看護師役・患者役の双方をそれぞれ体験する 3.学内実習後のリフレクション (グループワークと発表) 1)援助者・患者役からの学びを話し合う ・排泄行為を他者に委ねた模擬体験から 感じとれたことを出し合い、看護師と して大切にしていきたいことをまとめ て発表する 2)実習後の課題 ・模擬患者役としての評価を記載 ・リフレクションシートを記載	学内実習 グループワーク 発表 課題提示
14 15		排便を促す援助 の基礎知識を理 解する	2	1. 排便を促す援助の基礎知識 1)便秘のアセスメントと看護ケア 2)浣腸の適応・留意点 3)摘便の適応・留意点	講義 DVD視聴 「浣腸・摘 便」
		導尿について の概要を理解する ストーマケアに ついての概要を 理解する	2	1.導尿 1)一時的導尿の適応・留意点 2)持続的導尿の適応・留意点 2.ストーマケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義 DVD視聴 「導尿・膀胱 留置カテー テル」
	単位修得認定試験		1	筆記試験	

- 事前課題
1. フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き I 換気と加湿 p 25～28、Ⅷ ベッドと寝具 p 102、Ⅺ 身体の清潔 p 119 を読み、排泄物を取り扱う時の注意、看護師としてやらなければいけないことが記載されていればよい。
 2. ヴァージニア・ヘンダーソン 「3. 患者の排泄を助ける」を読み、正常な排泄ができる要因は何か記載されていればよい。
 3. ベッドに寝ていて、便意を感じトイレまで行き、排泄を済ませ再びベッドに戻るまでの経過を、できるだけ詳細に抽出してくる。行動レベルで、何をどのようにしていったのか、ひとつとも行動がもれないよう順序だてて記載する。(排泄行動が自立で行われるためには、排泄に必要な動作を不足なく書き出してくる) 排泄行動を実行できる能力を自分自身の排泄行動から確認してみます。

講義開始 3 日前に 1～3 内容の学習ノート提出

- 事後課題
1. 学内実習後、患者役として看護師役から援助を受けた感想と振り返りを記載する(模擬患者としての評価)。
 2. 学内実習後のリフレクションから、対象への配慮や尊厳を保つための援助方法がどのような行動になるとよいかを考え、今後の自己の課題を行動目標で明記しているか確認します(リフレクションシート)。

実習終了 2 日後に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
生活援助技術Ⅱ	1	30	1年 前期	藤原未央(○)坂本容子(○)
科目目的：人間にとっての環境・活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象が健康生活を送るために必要な知識・技術・態度を身につける 科目目標：1. 環境・活動・休息・睡眠の意義を理解する 2. 環境・活動・休息・睡眠のニーズのアセスメント方法を理解する 3. 環境・活動・休息・睡眠に対する援助技術を習得する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版社 看護の基本となるもの V. ヘンダーソン 日本看護協会出版社 参考文献：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学技術 基礎看護学③ メディカ出版 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社				
評価方法：筆記試験100%（藤原50%、坂本50%） 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→実習の振り返り（リフレクション）→事後課題の流れで進めていきます 3. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れています。積極的に参加しましょう 5. 学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう 6. レポートの内容については、授業で各自の意見を求めながら進めます				
単元： 環境		担当講師： 藤原未央		
単元： 活動・休息・睡眠		担当講師： 坂本容子		

授業進度と内容（環境）

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	環境調整	療養生活環境を整える意義を理解する 病室の環境のアセスメントと調整について理解する	2	1. 療養生活の環境 1) 人と環境 2) 療養生活と環境 3) 生活環境の調整 2. 病室の環境のアセスメント 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度 3) 光・音 4) 色彩	講義

	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5) 空気の清浄性と臭い 6) 人的環境 (事前課題) 文献学習後、ワークシート記載 (体験学習の内容) 1. 推測値・基準値・測定値 (照度・自分の足音・ワゴンの音) 2. 高・低ベッド、ストッパーなしのベッドからの乗り降り 3. しわのある・ないベッドの寝心地の違い (事後課題) 体験学習内容をワークシートに記載	講義 体験学習
2			2	(グループワーク課題) 事前課題及び体験学習をもとに、「快適な環境整備」について意見交換を行う 1. 事前・体験学習を通してそれぞれが感じたことを発表し合う 2. 快適な環境を整える必要性和その方法について意見交換する (事後課題) レポート作成	グループ ワーク 参加型
3 4 5 6 7 8		療養環境を整えるための援助技術を習得する	12	1. 学内実習 1) 項目：ベッドメイキング・環境整備 2) 方法 (1) 事前課題 ① リネンのたたみ方の練習 ② 援助計画書の熟読・DVD 視聴 (2) 学内実習の進め方 ① デモンストレーション ② 1 グループ 4 名で 1 ベッド使用し、リネンのたたみ方・おき方・広げ方を練習 ③ ジグソー学習 a. 敷きシーツ（三角）・掛けシーツ（四角）のチーム練習 b. 敷きシーツ（三角）・掛けシーツ（四角）のグループ練習 ④ 技術評価 ⑤ グループワーク（学内実習の学びの発表） ⑥ リフレクションシートの記載	DVD 学内実習 デモン ストレー ション ジグソー 学習 グループ ワーク

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9	活動	活動の意義について理解する 活動の基礎知識を理解する	2	1. 基本的活動・運動の意義とメカニズム 1) 人間と活動・運動 2) よい姿勢、日常生活動作 3) ボディメカニクス 2. 体位の種類と身体への影響 3. 同一体位の有害性	講義 グループ ワーク
10 11 12		活動のアセスメントし適切な援助方法を理解する 活動の援助技術を習得する	2	4. 活動のアセスメント 1) 運動のアセスメント (1) 体位・動作の観察 (2) 関節可動域の評価 (3) ADL の評価 2) 廃用症候群 5. 体位変換・体位保持・移動・移乗・移送の援助の基礎知識	参加型 DVD
			4	6. 学内実習 1) 実施項目 体位変換①仰臥位→水平移動→側臥位 ②仰臥位→端座位 移乗・移送 ①車椅子②ストレッチャー 2) 実習方法 (1) デモンストレーション (2) 援助計画書に沿って実施 (3) 終了後チェックリスト、リフレクションシート、患者体験レポートの記載	学内実習 デモン ストレー ション 体験学習
13	休息・睡眠・安楽	休息の意義について理解する 休息・睡眠の基礎知識を理解する 休息・睡眠のアセスメントし適切な援助方法を理解する	2	1. 休息の意義と睡眠の意義とメカニズム 2. 休息・睡眠のアセスメント 1) 活動内容と量・休息のとり方 2) 睡眠パターン 3) 睡眠障害 3. 休息・睡眠の援助 1) リラクゼーション	講義
14 15		安楽を促進する看護技術を習得する	4	4. 学内実習 1) 実施項目: 冷電法・温電法 2) 実施方法 (1) デモンストレーション (2) 援助計画書に沿って実施 (3) 終了後チェックリスト、リフレクションシートの記載	学内実習 デモン ストレー ション 体験学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前・事後課題（環境）

単元	事前	事後	課題内容	特記事項
環境整備	○		1. ナイティンゲールが述べている「環境」に関連する各項目（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ）を読み、それぞれの望ましい環境のあり方について理解した内容をワークシートに整理する 2. 教科書 P10～15 一般的な環境基準について調べる	講義開始 2 日前に提出
		○	ワークシートに体験学習から学んだこと・感じたことの内容を整理する	当日記載しグループワーク参加時に持参
		○	レポート課題（A4 用紙：1 枚） 文献学習・体験学習・グループワークを通して「療養環境を整える必要性」について自己の考えを整理する	グループワーク終了 2 日後に提出

事前課題（活動・休息）

ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の「歩行時および、臥位に際して患者が望ましい姿勢を保持するよう助ける。また患者がひとつの体位からほかの体位へと身体を動かすのを助ける」「患者の休息と睡眠を助ける」の部分を読んで看護師は何をみて、どんな援助していけばよいと述べているのか熟読し、学習ノートに整理する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
文化人類学	1	30	1 学年後期	菊地 達夫(○)
科目のねらい ● 文化人類学の概要、主たる研究方法について理解できる ● 環境・地域・社会との文化的多様性のあり方について理解できる ● 文化人類学を通じた個人と文化の関係性について理解できる ● 観光と文化の関係性（観光人類学の内容）について理解できる 本科目では、具体的事例としてアイヌ民族・文化の内容を多用する				
教科書 : 使用しない（必要に応じて、資料を配付する） 参考文献 : 波平恵美子編『文化人類学』医学書院 E.A.シュルツ／R.H.ラヴェンダ『文化人類学Ⅰ・Ⅱ』古今書院 山下晋司編『観光人類学』新曜社				
評価方法 : 最終試験（50%）、作業課題の内容（30%）、受講態度・参加意欲（20%） 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 授業は、学習課題の提示、作業学習（問題解決型学習・グループ学習）、発表共有、解説・説明などを組み合わせてすすめる。とりわけ、配付資料からの読み取り・意見提出、学習課題に対する自分の考えといった思考判断を重視する				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	科目の到達目標、授業展開、評価方法等について理解できる	2	・到達目標の内容 ・授業内容の構成 ・評価方法の内容と割合	講義
2	文化人類学とは	文化人類学は、どのようなことを学ぶのか、理解できる	2	・文化人類学の誕生 ・文化の諸相 ・隣接分野（地理学・民俗学等）	作業 講義
3	フィールドワーク	文化人類学におけるフィールドワークの内容について理解できる	2	・フィールドワークの意義 ・フィールドワークの方法 ・フィールドワークの課題	作業 講義
4	地域環境	地域環境とりわけ自然環境と文化の関係性について理解できる	2	・自然環境が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5	地域社会	地域社会と文化の関係性について理解できる	2	・地域社会が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
6	社会組織	国家（社会組織）と文化の関係性について理解できる	2	・国家が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
7	生業形態	生業形態と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の生業形態の特色	作業 講義
8	世界観	世界観と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の世界観の特色	作業 講義
9	言語	言語と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ語地名の意味と地域的広がりとの関係性	作業 講義
10	通過儀礼	通過儀礼と文化の関係性について理解できる	2	・国内外における通過儀礼の地域的特色	作業 講義
11	健康	健康・医療と文化の関係性について理解できる	2	・地域間比較にみる健康・医療の考え方・捉え方の差異	作業 講義
12	観光と植民地主義	植民地主義と観光文化の関係性について理解できる	2	・植民地主義がもたらす観光文化の成立・変容	作業 講義
13	観光と文化保存	観光と文化保存のあり方について理解できる	2	・アイヌ文化を活用する地域観光の具体例	作業 講義
14	持続可能な観光開発	持続可能な開発と観光のあり方について理解できる	2	・文化遺産の保存・保全と観光開発のバランス	作業 講義
15	まとめと整理	各授業の重点について理解できる	2	・各授業のキーワードの抽出 ・全体を通じての知識理解 ・他科目等への知識の応用	作業
単位修得認定試験			1	最終試験 作業課題の内容 受講態度・参加意欲	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
国語表現法	1	15	1年後期	福田信一(○)
科目のねらい 正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につけ、すべての学科の基礎となる国語力、国語表現力を養う				
教科書 : その都度資料配布 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定単: 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 講義形式で講義テーマについて学習した後、演習形式で実際にグループ等を活用して練習を行います 講義の中でレポートを課すこともあります 筆記試験で評価します				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	日本語とは①②	2	日本語と国語	講義・演習
2	日本語とは③④	2	日本語と国語	講義・演習
3	日本語と位相①②	2	話し言葉と書き言葉	講義・演習
4	日本語の位相③④	2	日本語の語彙	講義・演習
5	表現の実践①②	2	小論文・論文・レポート・報告書の実践・演習	講義・演習
6	表現の実践③④	2	レポートの実践	講義・演習
7	表現の応用①②	2	文章づくり	講義・演習
8	表現の応用③	1	文章づくり	講義・演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
解剖生理学Ⅳ	1	30	1年後期	山本哲三(○)杉本信志(○)賀来 亨(○) 永森克志(○)杉山雅子(○)島村佳一(○)
科目のねらい 生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%(山本 15% 杉本 25% 賀来 15% 杉山 15% 永森 15% 島村 15%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書、参考資料 スライドを活用して進めます				
単元：生殖器系	担当講師：山本哲三		単元：脳・神経系	担当講師：杉本 信志
単元：眼科	担当講師：賀来 亨		単元：皮膚科	担当講師：永森 克志
単元：歯科	担当講師：杉山 雅子		単元：耳鼻科	担当講師：島村 佳一

授業進度と内容

回数	単 元		時間	学習内容	授業形態
1 2	生殖・発生と老化のしくみ 生殖器系		4	・男性生殖器の構造と機能 ・女性生殖器の構造と機能 ・受精と胎児の発生 ・成長と老化	講義
3 4 5 6 7	情報の受容と処理 脳・神経系		10	・神経系の構造と機能 ・脊髄と脳 ・脊髄神経と脳神経 ・脳の高次機能 ・運動機能と下行伝道路 ・感覚機能と上行伝道路	講義
8 9	感覚器系	眼科	4	目の構造と視覚	講義
10 11		皮膚科	4	皮膚の構造と機能	講義
12 13		耳鼻科	4	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義

回数	単 元		時間	学習内容	授業形態
14 15	感覚器系	歯科	4	テーマ:口腔の機能と構造 ・ 歯の構造と各部の名称 ・ 歯式について ・ 歯(永久歯・乳歯)の発生と萌出時期 ・ 唾液腺の種類と特徴 ・ 唾液の働き ・ 咀嚼について ・ う蝕と歯周病について 原因と全身に及ぼす影響 ・ 口臭について ・ ブラッシング	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
人の生活と食事	1	15	1年後期	上坂 真智子(○)
科目のねらい 食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う				
教科書 : わかりやすい 栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際 (ヌーベルヒロカワ) 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 (90%)、平常点 (10%) 平素の受講態度等を加味する。 評価認定 : 優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点以上)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする。				
授業の進め方 教科書と配布資料を中心に進める。				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	日常生活と栄養 栄養指導の過程 栄養補給法	2	1. 食習慣と栄養 2. 日本人の食事摂取基準 3. スポーツと栄養 4. 栄養指導と食事の調整 5. 経管栄養と中心静脈栄養	講義
2	特定保健指導 食事指導の実際 ・肥満 ・糖尿病	2	1. メタボリックシンドローム 2. 特定保健指導 3. 肥満のある患者 4. 糖尿病のある患者	講義
3	食事指導の実際 ・高血圧 ・脂質異常症 ・痛風	2	1. 高血圧のある患者 2. 脂質異常症 3. 痛風のある患者	講義
4	食事指導の実際 ・虚血性心疾患 ・脳卒中 ・COPD (慢性閉塞性肺疾患)	2	1. 虚血性心疾患のある患者 2. 脳卒中のある患者 3. COPD (慢性閉塞性肺疾患) のある患者	講義
5	食事指導の実際 ・肝炎、肝硬変 ・膵炎、胆石症	2	1. 肝炎、肝硬変のある患者 2. 膵炎、胆石症のある患者	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
6	食事指導の実際 ・CKD（慢性腎臓病） ・潰瘍性大腸炎、クローン病 ・胃切除術後	2	1. CKD（慢性腎臓病）のある患者 2. 潰瘍性大腸炎、クローン病のある患者 3. 胃切除術後（周術期）の患者	講義
7	食事指導の実際 ・摂食・嚥下障害、褥瘡 ・貧血 ・骨粗鬆症 ・食物アレルギー	2	1. 摂食・嚥下障害のある患者 2. 褥瘡のある患者 3. 貧血のある患者 4. 骨粗鬆症のある患者 5. 食物アレルギーのある患者	講義
8	講義のまとめ	1	まとめ	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
生活援助技術Ⅲ	1 単位	3 0 時間	1 年 後期	吉田かつえ(○)藤原未央(○)三上麻美(○)
科目目的：人間にとっての身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける 目標：1. 衣生活、清潔の意義を理解する 2. 衣生活、清潔のアセスメントの方法を理解する 3. 清潔の援助方法を習得する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会 参考文献：ナースング・グラフィカ 基礎看護学技術 基礎看護学③メディカ出版 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 学研 看護技術プラクティス第4版				
評価方法：筆記試験100%（吉田60% 藤原20% 三上20%） 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題を前提に授業を進めます 2. 授業の中で配布された資料は、必ず持参してください 3. 講義、学内実習または演習、リフレクションの流れで進めていきます 4. 学内実習・演習では、モデル人形や学生間の実施等を通して進めていきます 5. 学内実習・演習前には、事前学習の活用、個人ワーク、共同学習を行います 清潔技術に活かせるようにしましょう				
単元：清潔の援助 清潔の意義、 衣生活 寝衣交換 手浴・足浴			担当講師：吉田かつえ	
単元：清潔の援助 洗髪			担当講師：藤原未央	
単元：清潔の援助 清潔			担当講師：三上麻美	

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	清潔の援助	清潔にすることの意義について理解する	2	1. 清潔の意義 1) 事前課題であるヘンダーソンの「看護の基本となるもの」の中の「清潔」について説明する 2) 清潔にすることの身体的・精神的・社会的な意味 3) 皮膚の構造と機能 4) 対象の状態に応じた援助の決定と留意点 2. 体験学習 1) 心地よい湯温の検証 2) 水とお湯の石鹸の泡立ち	講義 体験学習

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2		衣生活の意義について理解する 衣生活の基礎知識を理解する 衣生活のアセスメントと適切な援助を理解する	2	衣生活 1. 衣生活の意義 2. 衣生活の基礎知識 1) 熱産生と熱放散 2) 被服気候 3) 衣生活のアセスメント (1) 発達段階上のニーズ (2) 衣生活の自立度 (3) 衣生活の理解度・認識 (4) 衣生活に関する習慣 3. 衣生活の援助の基礎知識 1) 寝衣交換	講義
3		足浴の基礎知識を理解する	2	足浴 1. 足浴の目的 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント	講義
4 5		安全・安楽な寝衣交換の方法を習得する	4	寝衣交換の援助 学内実習（実施項目：寝衣交換） 事例：ベッド上安静の患者、筋力がなく自力で身体を動かすことができない 1) 学習方法 (1) デモンストレーション (2) 事前に配布してある援助計画書に沿って実施する 2) 実習終了後チェックリスト、リフレクションシートの記載	デモンストレーション 学内実習
6 7		手浴・足浴のアセスメントと適切な援助を理解する 足浴の援助技術を習得する	4	足浴の援助 学内演習（実施項目：足浴） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 1) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 足浴の方法と根拠を学習し、グループで援助計画書を作成する (3) 担当教員から援助計画書の指導・助言を実施後に受ける (4) 立案した援助計画書を元に技術練習を実施する (5) 技術評価 (6) リフレクション	学内演習 デモンストレーション DVD視聴

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8	清潔の 援助	洗髪の基本知識を 理解する	2	洗髪 1. 洗髪の方法 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント	講義 DVD
9 10 11		洗髪のアセスメン トと適切な援助を 理解する 洗髪の手援助技術を 習得する	6	洗髪の手援助 学内演習（実施項目：ケリーパッド・洗 髪車による洗髪） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 2) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 洗髪の方法と根拠を学習し、グル ープで援助計画書を作成する (3) 担当教員から援助計画書の指導・ 助言を実施後に受ける (4) 立案した援助計画書を基に技術練 習を実施する (5) 技術評価 (6) リフレクション	学内演習 デモンスト レーション
12		全身清拭の基本知 識を理解する	2	全身の保清 1. 全身清拭の方法 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント	講義 DVD
13 14 15		全身清拭のアセス メントと適切な援 助を理解する 全身清拭の手援助技 術を習得する	6	全身清拭の手援助 学内演習（実施項目：全身清拭） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 3) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 全身清拭の方法と根拠を学習 し、グループで援助計画書を作成 する (3) 担当教員から援助計画書の指導・ 助言を実施後に受ける (4) 立案した援助計画書を基に技術練 習を実施 (5) 技術評価 (6) リフレクション	学内演習 デモンスト レーション
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題

(衣生活)

ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の「患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」の部分を読んで看護師は何をみて、どんな援助していけばよいと述べているのか、熟読し、学習ノートに整理する。

(清潔の援助)

ヘンダーソン「8. 患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」を読み、次の内容について整理する。

1. 清潔の「心理学的意義」と「生理学的意義」
2. 現在の医療情勢における、対象の「清潔」の保持方法
3. 清潔の基準および看護師の役割

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
フィジカルアセスメント技術	1	30	1年後期	井上里織(○) 藤原未央(○)
科目目的：ヘルスアセスメントに必要とされる知識・技術・態度を身につける 目標：1. 視診、触診、打診、聴診の基本的技法を習得する 2. バイタルサインの意義、測定方法を習得し、アセスメントの視点が理解できる 3. 標準的な身体計測の方法を習得し、評価できる 4. 全身の系統別なフィジカルアセスメントの実践を学ぶ				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 参考文献：看護技術プラクティス 学研 第4版				
評価方法：筆記試験 藤原70%（小テスト20%） 井上30% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 各授業のはじめに前回講義範囲の小テストを行い学習状況を確認しながら授業を進めていきます 各講義では、学習したことをすぐ実施して体験学習を積みながら、学内実習につなげていきます				
単元：フィジカルアセスメント技術 身体各部の計測			担当講師：藤原未央	
単元：バイタルサイン測定とアセスメント 学内実習			担当講師：井上里織	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と目的が理解する	2	1.ヘルスアセスメントの意義と目的 2.ヘルスアセスメントにおける観察と重要な視点 3.問診(面接)の技術 4.健康歴聴取の目的と実際 5.セルフケア能力のアセスメント 6.情報の整理・記録・報告 ＊ヘンダーソンの14項目 アセスメントの視点	講義
2 3 4 5 6 7	フィジカルアセスメント技術	系統別フィジカルアセスメントの実際を理解する	12	1.全体の概観 1)視診の技術 2)触診の技術 3)聴診の技術 4)打診の技術 2.全身状態・全体印象の把握 3.呼吸器系のフィジカルアセスメント 4.循環器系のフィジカルアセスメント 5.乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 6.腹部のフィジカルアセスメント 7.筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義

[illegible]

事前課題：1. ヘンダーソンの14項目のうち、1.呼吸、2.飲食、3.排泄、4.姿勢、5.休息と睡眠、7.体温
これらの項目についてアセスメントの視点を整理する

* 講義初回日にノート整理したものを提出

バイタルサイン測定の方法とアセスメントの基礎知識を習得する

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
診療援助技術	1	30	1年後期	三上麻美（○） 井上里織（○）
科目目的：診療に伴う検査・治療・処置の基本的な知識・技術・態度を学ぶ 目標：1. 吸入・吸引・排痰の目的と方法を理解する 2. 各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を学ぶ 3. 注射の基本知識と実際を学ぶ 4. 一次救命処置 AED による除細動の使用方法を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 参考文献：看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 ぴあ出版				
評価方法：筆記試験 三上50%（筆記試験45% 小テスト1回5%） 井上50%（筆記試験35% 小テスト3回15%） 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 講義と学内実習を組み合わせる授業を進め、各技術の根拠を小テストで確認していきます 学内実習では注射法の技術を習得する授業になりますので、各自で練習を積んで技術を完成させましょう				
単元：診療・検査・処置・与薬			担当講師：三上麻美	
単元：注射・学内実習			担当講師：井上里織	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	診療・検査・ 処置の介助 技術	看護師の役割を理解 する	4	1.診療の基礎知識 1)診察における看護の役割 2)診察時の援助 2.検査の基礎知識 1)検査時の看護師の役割 3.主な検査の具体的援助方法 1)生体検査・処置 穿刺の介助：胸腔穿刺 腰椎穿刺 2)検体検査 静脈血採血・血糖測定 尿検査 便検査 3)生体情報のモニタリング SpO ₂	講義
3	静脈血採血	静脈血採血を安全で 正確に実施する技術 を習得する	2	4.学内実習：静脈血採血法 1) 実施項目：採血ホルダー・真空 試験管を使用した採血 2) 学習方法	学内実習 デモンストレーション

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(1)事前課題の内容を確認 (2)援助計画書を熟読し根拠・留意点を確認し手順に沿って実施する ＊採血シミュレーターを使用 3) リフレクション (1)技術チェックリストを用い、担当教員から個別指導・助言 (2)リフレクションシートの記載	
4	呼吸を整える技術	吸入・吸引・排痰の基礎知識を理解する 一次救命処置 AED による除細動の実施方法を習得する	2	1.酸素吸入療法の基礎知識 2.吸引の基礎知識 1)一時的吸引 2)持続的吸引 3.排痰 1)体位ドレナージ 2)スクイーピング 4.吸入の基本知識 1)ジェット式 2)超音波ブライザー	講義
5	循環を整える技術	AED の使用目的・方法を理解する 一次救命処置 AED による除細動の実施方法を習得する	2	5.学内実習：AED による除細動 1)実施項目 (1)心拍・脈拍、呼吸の確認 (2)AED パッドの装着・通電 2)学習方法 (1)AED の使用目的と方法 (2)トレーニング用 AED を使用し、援助計画書の手順に沿って実施 6.リフレクション 1)技術チェックリストを用い、個別指導・助言 2)リフレクションシートの記載	講義 デモンストレーション 学内実習
6 7	与薬の技術	各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を理解する	4	1.与薬の基礎知識 1)剤形と吸収経路 2)看護師の役割 (1)正しい与薬 6R 確認 (2)薬の管理 2.援助の基礎知識と実施方法 1)経口与薬 2)吸入 3)点眼 4)点鼻 5)経皮的与薬 6)直腸内与薬	講義 DVD 視聴 「与薬」 直 腸 内 与

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
					薬・グリセリン浣腸：体験学習
8 9 10 11 12 13 14 15	注 射	注射の基本知識と根拠・留意点を理解する 皮下注射を安全で正確に実施する技術を習得する 筋肉注射を安全で正確に実施する技術を習得する 点滴静脈内注射と輸液ポンプの使用方法を習得する	16	1.注射の基礎知識 1) 注射方法の種類と概要 2) 注射器の取り扱い・注射の準備 (1)アンプルからの吸い上げ (2)バイアルからの吸い上げ (3)輸液セット延長チューブの接続 (4)輸液ポンプの取り扱い 3) 各注射・点滴の根拠・留意点 (1)注射部位の選択 (2)実施前の評価 (3)必要物品 (4)患者への説明・実施方法 (5)実施中・後の評価 2.学内実習：注射の実施法 1)実施項目 (1)皮下注射 (2)三角筋の筋肉内注射 (3)点滴静脈内注射と輸液ポンプの使用方法 2) 学習方法 (1)注射用シミュレーターを使用し、援助計画書の手順に沿って実施 3)リフレクション (1)技術チェックリストを用い、個別指導・助言 (2)リフレクションシートの記載	講義 DVD 視聴 筋肉・皮下・皮内注射の講義、デモンストレーション、学内実習 点滴静脈内注射の講義、デモンストレーション、学内実習 臀部の筋肉内注射は体験学習
単位修得認定試験			1	筆記試験・小テスト	

事前課題：1. 静脈血採血 ・上肢の血管・神経の走行

2. 点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射に適した静脈と誤って穿刺する危険のある動脈・神経

3. 筋肉内注射 ・筋肉内注射に適した部位と神経の走行

4. 皮下注射 ・皮下注射に適した部位と神経の走行

*1～4は解剖の学習 ノートにスケッチすること

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
生活援助技術実践	1	30	1年後期	藤原未央（○）
科目目的：既習の知識・技術を活用し、根拠に基づき、状況設定に応じた看護技術を倫理的態度で安全・安楽に実践できる能力を習得する 目標：1. 演習の目的、内容、方法について理解する 2. 2つの状況設定をグループメンバーで討議し援助計画書を立案する 3. 上記の2つの状況設定の援助計画書を個人で完成させる 4. 指定された状況設定を援助計画書に沿ってひとりで実践する 5. 自己の達成レベルの確認を通して自己を評価し、今後の自己課題（自己目標）を明確にする				
教科書：基礎看護学全般				
評価方法：事前援助計画書20%、実技試験70% グループワーク、演習への取り組み姿勢10% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 既習してきた援助技術試験になります 2. 演習のオリエンテーションを受けてから、グループ学習になります 3. グループメンバーとともに2つの状況設定の援助計画書を立案し、提出は各個人になります 4. グループ学習ですので、メンバーそれぞれお互いに協力しながら学習を進めてください 5. 2つの状況設定のうち1つ状況設定の技術試験になりますので、ひとりで実践できるように、練習を重ねてください				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	目的、内容、方法を理解する グループメンバーと援助計画書を立案する	2	1. オリエンテーション 1)内容 2)学習方法 3)グループ編成 4)評価方法 5)注意事項・留意点 6)事例提示	講義
2 3 4 5 6 7	技術練習	援助計画書を立案する 看護技術をひとりで実践する	28	1. 演習 1)実施項目 既習の生活援助技術Ⅰ～Ⅲの看護技術内容を応用し事例による 2つの状況設定を提示する	グループ学習 個人学習

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9 10 11 12 13 14 15	技術練習	援助計画書を立案する 看護技術をひとりで実践する		2)学習方法 (1)グループワーク ① 2つの状況設定の援助計画書を指定の様式に従い話し合い作成する ②個人で作成した援助計画をもとにグループメンバー間で技術練習をする (2)個人ワーク ①グループワークでの内容を活かし、個人で状況設定援助計画を作成する ②作成した状況設定援助計画に沿ってひとりでできるように技術練習する (3)各担当教員からの個別指導・助言 (4)リフレクションシートによる振り返り 4)評価方法 (1)実技試験は、試験当日2つの状況設定のうち、指定された1つの状況設定を個人で作成した援助計画書通りに実施し、実技評価表を基に評価を受ける (2)援助計画書、実技試験、態度領域を評価表に基づき評価する	グループ学習 個人学習
単位修得認定試験			1	実技試験 援助計画書 態度領域	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
看護展開技術	1	30	1年 後期	藤原未央（○）
科目目的：対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的・論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ 目標：1. 看護実践における看護過程展開の意義・目的を理解する 2. 看護過程の構成要素とそのプロセス（方法）を理解する 3. ヘンダーソン看護論の定義・概念を理解する 4. ヘンダーソン看護論に基づき対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な思考過程を展開する				
教科書：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 看護の基本となるもの V.ヘンダーソン著 湯慎ます他訳 日本看護協会出版社 秋葉公子著 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（第4版）ヌーベルヒロカワ 参考文献：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 焼山和憲 日総研 看護アセスメント力鍛え方&教え方 内田陽子 日総研 わかりやすい看護過程 黒田裕子 照林社				
評価方法：筆記試験60% 看護過程演習40% 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 予習・復習には上記の教科書・参考書に限らず、関連図書・資料を活用しましょう 3. 看護学概論・共通援助技術・生活援助技術で学習した「ヘンダーソン」に関する学習内容をポートフォリオにして活用していきます 4. 看護実践の要となる看護の思考過程をグループワークを行いながら段階的に学んでいく授業になりますので、体調を整えて、欠席しないようにしましょう 5. 演習はPBL テュートリアル・担当教員とのゼミ形式で進めていきます 6. グループ学習（協同学習）における自己の役割・責任を認識し、積極的に話し合いに参加しましょう				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1～4	看護過程の概念・構成要素・プロセス	看護過程の意義・目的を理解する 看護実践における看護過程の位置づけを理解する 看護過程と看護理論の関係性を理解する アセスメントの意義・目的を理解する 情報収集の方法を理解する	2	1.看護過程とは 1)看護過程の意義・目的 2)看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 看護理論の活用 (4) 倫理的配慮と価値判断 2.看護過程の6つの構成要素 1)アセスメント (1) アセスメントの定義・目的 (2) 情報収集の方法 ①アセスメントの枠組み ②情報源 ③情報収集の方法・手段	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				④情報収集の時期 ⑤情報の種類・分類 ＜グループワーク課題＞ S/O 情報に分類してみよう	講義 グループ ワーク
		情報の分析方法を理解する	2	(3) 情報分析の方法 ①分析 ②推測 ③解釈 ④判断 ⑤選択 ⑥統合 ＜グループワーク課題＞ 情報の意味を考えてみよう	講義 グループ ワーク
		全体像（関連図）を把握する必要性と方法を理解する	2	2)全体像の把握（関連図）	講義
		看護課題を明確にする必要性と方法を理解する 優先順位決定の方法を理解する 看護計画を立案する必要性と方法を理解する 実施・評価の視点とプロセスを理解する	2	3)看護課題の明確化（看護診断） (1) 看護診断の定義・目的 (2) 看護診断ラベル（NANDA-I） (3) 看護課題の種類 ①看護が取り扱う課題 ②共同問題 ③顕在的課題と潜在的課題 ④ウェルネス型の看護課題 (4) 看護課題の表記方法 (5) 優先順位の決定方法 ＜グループワーク課題＞ 優先順位を考えてみよう 4)看護計画立案 (1) 計画立案の定義・目的 (2) 目標の設定 ①目標の表記方法 ②RUMBA の法則 (3) 看護介入方法（具体策） ①O-P、T-P、E-P ②5W1H (4) クリティカルパス 5)実施 (1) 実施の定義・目的 (2) 実施に必要な技術 (3) 実施のプロセス (4) 記録の方法 6) 評価 (1) 評価の定義・目的 (2) 評価のプロセス・視点・方法	講義 グループ ワーク

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5～ 10	ヘンダー ソン看護 論に基づ く看護過 程の展開	ヘンダーソン看護論の主要概念を理解する 基本的看護の構成要素(14項目)について、その内容と意味を理解する 基本的欲求に影響する常在条件とは何か理解する 基本的欲求を変容させる病理的状态とは何か理解する 基本的欲求の充足・未充足を判断する3側面(体力・意思力・知識)とは何か理解する 基本的欲求の視点で一連の看護過程が展開されていることを理解する	2	1. ヘンダーソン看護論の概念枠組み 1) 人間 2) 環境 3)健康 4)看護 2. ヘンダーソンによる看護の目的 3. 基本的看護の構成要素 14 項目 1) 基本的欲求の充足した状態 2) 基本的欲求の未充足状態 3) アセスメントの視点	講義
			2	4. ヘンダーソン看護論に基づく看護過程展開の実際 1) 事例紹介 大腿骨頸部骨折患者 (60 歳代女性) 2) 看護過程展開に必要な事前学習 3) アセスメント (1) 情報収集と情報整理 ①常在条件 ②病理的状态 ③基本的看護の構成要素 (14 項目) ・主観的データ (S 情報) ・客観的データ (O 情報) ・アセスメントガイドの活用 ＜グループワーク課題＞ データベースの記載 S/O 情報の分類	講義 グループ ワーク
			2	(2) 情報の分析・解釈 ①充足・未充足の判断 ②未充足の原因・誘因の明確化 ・体力・意志力・意識の3側面に視点を置いたアセスメント ＜グループワーク課題＞ 未充足の原因・誘因の明確化	講義 グループ ワーク
			2	4) 全体像 (関連図) ＜グループワーク課題＞ 関連図の作成	講義 グループ ワーク
			2	5) 看護課題の明確化 6) 優先順位の決定	講義
			2	7) 看護計画の立案 ①目標の設定 ・看護目標 ・期待される結果 (長期・解決) ②具体策の立案	講義 グループ ワーク

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11～ 15	看護過程 演習	回復期にある対象に必要な看護を看護過程の展開を通して考えることができる	10	1.紙上事例による看護過程展開演習 経過別：人工膝関節全置換術の回復期 事例：変形性膝関節症（50歳代・女性） 1)学習方法 (1)個人ワーク ＜冬期休暇中の課題＞ ①学習ノート作成 a.発達段階・発達課題 b.疾患に関する解剖生理・病態生理 c.変形性膝関節症・人工膝関節全置換術の看護 d.回復期の看護 ②データベースの記載 ③S/O情報の整理 ④充足・未充足の判断とその理由 ⑤体験学習 膝関節の可動域制限下での生活体験 ＜看護過程演習期間中の課題＞ ①グループワークに必要な事前学習の実施及び記録用紙の記載 ②グループワーク及び担当教員からの個別指導後の記録用紙の修正・追加 (2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を持ち寄り、意見交換・質問・確認 (3)各担当教員による個別指導・助言 (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 看護過程演習評価表で評価する	個人 ワーク グループ ワーク 個別指導
単位修得認定試験			1	筆記試験・看護過程演習評価表で評価する	

＜事前・事後課題＞ その都度提示しますので期限までにグループおよび個人学習を行う

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
臨床看護総論	1	30	1年 後期	齊藤まどか(○) 吉田かつえ(○)坂本容子(○)
科目目的：健康障害をもつ対象の状況に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を学ぶ 目標：1. 健康障害のある対象・家族の理解する 2. 各健康レベルにある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する 3. 各症状別にある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する 4. 各治療別に応じた対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 参考文献：新体系 看護学全書 基礎看護学④ 臨床看護総論 メヂカルフレンド社 成人看護学 リハビリテーション看護論 HIROKAWA				
評価方法：筆記試験100%（齊藤 40% 吉田 30% 坂本 30%） 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方1. 教科書、授業で配布した資料は、必ず持参してください 2. 今まで学んできた学習を想起して、授業に臨んでください 3. 調べ学習、グループワークがありますので、積極的に取り組んでください				
単元：健康障害のある対象・家族の理解 健康レベル別看護			担当講師：齊藤まどか	
単元：主要症状と看護			担当講師：吉田かつえ	
単元：治療別看護			担当講師：坂本容子	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	健康障害のある対象・家族の理解	健康上のニーズをもつ対象・家族を理解する	2	1. 健康上のニーズを持つ対象と家族への看護 1) ライフサイクルからとらえた対象と家族の健康上のニーズ (1) 人のライフスタイルからとらえた看護 ① ライフサイクルと発達段階 ② ライフサイクルと健康上のニーズおよび看護との関連 (2) 子どもの理解 ① ライフサイクルからみた子どもの特徴 ② 子どもの健康上のニーズ	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				③健康上のニーズをもつ子どもと 家族の看護 (3)成人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた成人 の特徴 ②成人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ成人と 家族の看護 (4)高齢者の理解と看護 ①ライフサイクルからみた高齢者 の特徴 ②高齢者の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ高齢者と 家族の看護 (5)親になる人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた親にな る人の特徴 ②親になる人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ親になる 人と家族の看護 2. 家族の機能からとらえた対象と 家族の健康上のニーズ 1)家族の理解 (1)家族とは (2)わが国の家族形態と価値観の変化 (3)家族の機能と発達課題 2)家族の健康上のニーズ (1)ユニットとしての家族のニーズ (2)健康問題を持つ人とその家族への 看護 3)生活と療養の場からとらえた対象 と家族の健康上のニーズ (1)生活と療養 (2)病院・施設における看護 (3)在宅における看護	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2 3 4 5	健康レベル別看護	急性期における看護 急性期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 急性期の特徴 2. 急性期の患者のニーズ 3. 急性期にある患者への看護援助	講義 ワークシート 発表
		慢性期における看護 慢性期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助	講義
		回復期における看護 回復期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 回復期の特徴 2. 回復期の患者のニーズ 3. 回復期にある患者への看護援助	講義 ワークシート 発表
		終末期における看護 終末期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 終末期の特徴 2. 終末期の患者のニーズ 3. 終末期にある患者への看護援助	講義
6 7 8	主要症状と看護	呼吸に関連する症状への看護 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 呼吸機能障害関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		循環に関連する症状への看護 循環機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 循環機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 循環機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 循環機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		栄養・排泄に関連する症状への看護 栄養障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 栄養障害・排泄機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 栄養障害・排泄機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 栄養障害・排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9 10		認知・知覚に関連する症状への看護 認知・知覚に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 認知・知覚に関連する症状のメカニズム 2. 認知・知覚に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 認知・感覚機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		安楽に関連する症状への看護 安楽に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 安楽に関連する症状のメカニズム 2. 安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
11 12 13 14 15	治療別看護	安静療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 安静療法と看護 1)安静療法とは 2)安静療法を必要とする対象とは 3)安静療法が及ぼす弊害 4)安静療法を受ける患者の看護	講義
		食事療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 食事療法と看護 1)食事療法とは 2)食事療法を必要とする対象とは 3)食事療法が患者に及ぼす影響 4)食事療法を受ける患者の看護	講義
		薬物療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 薬物療法と看護 1)薬物療法とは 2)薬物療法を必要とする対象とは 3)薬物療法が患者に及ぼす影響 4)薬物療法を受ける患者の看護	講義
		放射線療法の特徴と治療を受ける患者の看護について理解する	2	1. 放射線療法と看護 1)放射線療法とは 2)放射線療法に伴う有害事象 3)放射線療法を受ける対象の看護	講義
		リハビリテーションにおける看護を理解する	2	1. リハビリテーションと看護 1)リハビリテーションにおける看護の概念と目的 2) 看護の役割 3)看護活動 (1)急性期、慢性期、回復期	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学総論Ⅰ	1	15	1年 後期	三上麻美（○）
科目目的：成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ 目標：1. 成人看護学の特性を理解する 2. 成人看護の機能と役割を理解する 3. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 成人看護に有用な理論を学ぶ				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 医学書院 参考文献：成人看護学概論 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 成人看護学概論(第2版) ヌーベルヒロカワ 新体系 看護学全書 成人看護学概論 成人保健 メヂカルフレンド社 事例を通してやさしく学ぶ 中範囲理論入門 日総研				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 教科書、配布資料をもとに授業を行います 2. グループワークには、積極的に参加しましょう 3. グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1	成人看護の機能と役割	成人看護学の概要を理解する 成人看護の機能と役割を理解する	2	1. 看護学全体から見た成人看護学の位置づけ 2. 成人の定義 1)生理学的定義 2)法律的定義 3)大人になるとは 3. 成人看護の基本的姿勢 1)健康行動の促進 2)健康生活を支える人間関係の構築 3)集団へのアプローチ 4)チームアプローチ 5)看護マネジメント 6)倫理的判断 7)意思決定支援 8)家族支援	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
2 3 4 5 6	成人看護の 対象	成人期の発達段階・ 発達課題を理解する 成人各期における身 体的・精神的・社会 的側面の特徴を理解 する	10	1. ライフサイクルからみた成人期の位置 づけ 2. 成人期の発達段階・発達課題に関する 理論 1) エリクソン 2) ハヴィガースト 3) レビンソン 3. 成人各期の発達段階・発達課題の特徴 1) 青年期 2) 壮年期・中年期 3) 向老期	講義 グループ ワーク
7 8	成人看護に 有用な理論	対象理解および看護 実践に活用できる理 論の概略を理解する	3	1. セルフケア 2. 病みの軌跡 3. 自己効力 4. アンドラゴジー 5. エンパワメント 6. ストレスコーピング 7. フィンク	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学総論Ⅱ	1	30	1年 後期	三上麻美(○) 鎌田たまみ(○)
科目目的：成人期にある対象の生活および健康課題と成人保健の動向を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための対策を学ぶ 目標：1. 成人を取り巻く社会環境と成人の生活を理解する 2. 成人保健の動向を理解する 3. 成人各期における健康課題の特徴を理解する 4. 成人期にある人の健康の保持・増進、疾病予防のための保健医療福祉対策を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論① 医学書院 参考文献：ナースিং・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 成人看護学概論 南江堂 成人看護学概論(第2版) ヌーベルヒロカワ 新体系 看護学全書 成人看護学概論 成人保健 メヂカルフレンド社				
評価方法：筆記試験 三上 50% 鎌田 50% 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 教科書、配布資料をもとに授業を行います 2. グループワークには、積極的に参加しましょう 3. グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう				
単元：社会環境と成人の生活 成人保健の動向			担当講師：鎌田たまみ	
単元：成人期に特徴的な健康課題と対策			担当講師：三上麻美	

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1 2 3	社会環境と成人の生活	成人を取り巻く社会環境を理解する 成人の生活の営みとその多様性について理解する	6	1. 働くことと生活 1)生活を営む意味 2)働くことの意味 3)ワークライフバランス 2. 家族との関係 1)家族の定義 2)家族形態の変化 3. 多様なライフスタイル 1)日常生活スタイルの変化 2)日常生活を取り巻く環境 3)健康観の多様性	講義 グループワーク
4 5 6 7	成人保健の動向	成人の健康を様々な保健統計を通して理解する わが国の保健・医療・福祉に関わる施策の概要と連携の必要性を理解する	8	1. 保健統計から見た成人の健康の動向 1)人口構成と成人期を生きる人々 2)平均寿命と健康寿命、死亡状況 3)受療状況 4)体力の程度 5)労働災害、業務上疾病 6)性感染症 7)ドメスティック・バイオレンス 8)自殺 9)障害者の状況	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
		ヘルスプロモーションの概要を理解する		2. 成人を対象とした保健・医療・福祉対策 1) 保健にかかわる対策 ① 健康増進・生活習慣病対策 ② 健康危機管理への対応 ③ 高齢者への保健事業 2) 医療にかかわる対策 ① 医療法の改正 ② 21 世紀の医療提供体制 3) 福祉にかかわる対策 ① 障害者福祉 ② 高齢者福祉 4) 保健・医療・福祉の連携の重要性 3. ヘルスプロモーション 1) ヘルスプロモーションとは 2) ヘルスプロモーションの目標 3) ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	成人期に特徴的な健康課題と対策	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ各期の健康課題の特徴を理解する 成人期にある人の主な健康障害とその予防・対策について理解する	16	1. 成人各期に特徴的な健康課題 1) 青年期にある人の健康課題 2) 壮年期・中年期にある人の健康課題 3) 向老期にある人の健康課題 2. 生活習慣に関連する健康障害 1) 生活習慣と健康障害の関連 2) 生活習慣病の発生要因と対応 3) 生活習慣病の発生予防 3. 職業に関連する健康障害 1) 職業性疾病および業務上疾病 2) 職業性疾病の予防と対応 4. 生活ストレスに関連する健康障害 1) 生活ストレスと健康障害 2) 成人の生活ストレス 3) ストレス関連疾患の予防と対応 5. セクシュアリティに関連する健康障害 1) セクシュアリティと健康に関連する概念 2) 性的健康の指標および実態 3) 性に関連する健康障害の予防と対応 6. 更年期に関連する健康障害 1) 更年期障害とは 2) 更年期障害の原因・症状 3) 更年期障害の予防と治療	講義 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
老年看護学総論Ⅰ	1	15	1年 後期	齊藤まどか（○）
科目目的：老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ 目標：1. 老年看護の理念・目的・目標を理解する 2. 老年看護の特徴・看護師が果たす役割を理解する 3. 老化に伴う高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する 4. 高齢者模擬体験を通して生活動作の不自由さを実感し、高齢者の心理的側面及び環境調整の意義や必要性を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 参考文献：新体系 看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論老年保健 メヂカルフレンド社 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版				
評価方法：筆記試験80% 高齢者模擬体験演習20% 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価をする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを行いますので、積極的に参加しましょう				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	老年看護 の機能と 役割	老年看護の理念・ 目的・目標を理解 する 老年看護の特徴を 理解する 老年看護の原則を 理解する 老年看護における 看護の役割を理解 する	4	1. 老年看護の理念 1) 高齢者の特性 2) 老年看護の独自性 (1) 生活に着目することの意味 (2) 生活を志向した援助の体系 (3) 看護の働きが求められる生活という 営み 3) キュアとケアの統合 (1) 治療と看護 (2) 予測と予防の看護 4) 看護の役割と介護の役割 5) 老年観（高齢者観）の育成 2. 老年看護の目的・目標 1) 満足のいく生の完成 2) 快適で自立した生活の実現	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. 老年看護の特徴 1)注目すべき4つの側面 2)高齢者のための国連原則 3)老年看護の原則と看護の役割 (1)意思決定する力の信頼・支援 (2)最大限の生活機能の回復 (3)死にいたるプロセスの調整 (4)家族のニーズに応じた支援 (5)潜在力を引き出す環境調整 (6)他職種との連携	講義
3 4 5 6 7 8	老年看護 の対象	老化に伴う身体的・精神的・社会的変化について理解する 老年期の発達段階・発達課題を理解する	4	1. 加齢と老化 1)身体的側面の変化 2)精神（心理）的側面の変化 3)社会的側面の変化 2. 老年期の発達段階・発達課題 1)老年期とは 2)高齢者が生きてきた時代背景 3)老年期の発達課題 (1)エリクソン (2)ペック (3)ハヴィガースト 4)死生観・スピリチュアリティ	講義
		高齢者模擬体験を通して、老化に伴う生活動作の不自由さを理解する 高齢者が安全・安楽に生活するための関わりを理解する	7	3. 高齢者模擬体験演習 1) 実施方法 (1)事前課題 ①老化に伴う機能変化についての復習 ②体験内容の事例(ストーリー)の作成 (2)学内演習の進め方 ①グループ内で「高齢者役」「看護師役」「高齢者役及び看護師役の観察者」をローテーションする ②「高齢者役」は各自で考えたストーリーに沿って模擬体験を行う ③演習終了後のグループワーク a.高齢者役を通しての学び b.看護師役を通しての学び c.安全・安楽な高齢者の生活を支えるための関わりについて	学内演習 グループ ワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				④リフレクションシートの記載 2)評価方法 高齢者模擬体験演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験、高齢者模擬体験演習評価表	

< 事前課題 >

第1・2回：第3章「老年看護の基盤」を熟読する。

第3・4回：第1章「老いるということ、老いを生きるということ」を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
老年看護学総論Ⅱ	1	30	1年 後期	齊藤まどか(○) 仲田恵子(○)
科目目的：高齢者を取り巻く社会情勢及び保健医療福祉対策を理解し、高齢者の療養生活の現状と その中で看護が果たす役割を学ぶ 目標：1. 超高齢社会の現状を統計的輪郭から理解する 2. 高齢者の生活と健康を支える保健医療福祉制度・政策について理解する 3. 高齢者の権利擁護について理解する 4. 多様な場で生活・療養する高齢者と家族に対する看護を理解する 5. 老年看護に理論を活用する意義と代表的な理論の概要を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 参考文献：看護学テキスト NICE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは 南光堂 ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版				
評価方法：筆記試験 100%（齊藤60%、仲田40%） 評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階 評価をする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります				
単元： 高齢社会と社会保障、看護理論			担当講師： 齊藤まどか	
単元： 高齢者の生活・療養の場			担当講師： 仲田恵子	

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	高齢社会 と社会保 障	高齢者に関する統計 的特徴を理解する	4	1. 高齢社会の統計的輪郭 1)わが国の高齢化 2)高齢者のいる世帯 3)高齢者の健康状態 4)高齢者の死亡 5)高齢者の暮らし	講義
		高齢者を支える様々 な社会制度の成立背 景と目的・役割を理 解する	8	2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1)高齢者とソーシャルサポート 2)保健医療福祉制度の変遷 3)介護保険制度の整備 4)高齢者医療の仕組み 5)高齢者を支える職種と活動の多様性	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7 8		高齢者の倫理的課題と法的整備の動向を理解する	4	3. 高齢者の権利擁護 1)高齢者に対するスティグマと差別 2)高齢者虐待 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業	講義
9	老年看護に有用な看護理論	高齢者の看護を考える上で有用な理論やアプローチ方法を理解する	2	1. 老年看護に理論を活用する意義 2. 老年看護に役立つ理論・概念 1)エイジング 2)エンパワメント 3)生涯発達理論 4)バトラー 5)ストレングス	講義
10 11 12 13 14 15	高齢者の生活・療養の場	在宅での療養生活の現状と看護の概要を理解する 保健医療福祉施設の特徴と看護の概要を理解する	6	1. 高齢者の療養の場と看護 1)在宅高齢者への看護 (1) 介護予防と看護 (2) 介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護 (3) 包括的・継続的に支援する活動 2)保健医療福祉施設における看護 (1) 医療施設の特徴と看護 (2) 介護保険施設の特徴と看護	講義
		高齢者を介護する家族の特徴と家族への支援を理解する	4	2. 高齢者の家族と看護 1)介護家族の生活と健康 2)介護家族への看護	
		高齢者に特有のリスクと対策を理解する	2	3. 高齢者のリスクマネジメント 1)高齢者と医療安全 2)高齢者と救急救命 3)高齢者と災害看護	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

< 事前課題 >

(高齢社会と社会保障) 第1回 : 老年に関する統計について整理する。

第2～7回 : 第2章「高齢社会と社会保障」を熟読する。

第8回 : 第3章「老年看護の基盤」の理論・概念の活用を熟読する。

(高齢者の生活・療養の場)

第7章「生活・療養の場における看護の展開」、第8章「高齢者のリスクマネジメント」を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講 師 (○＝実務経験者)
小児看護学総論Ⅰ	1	15	1年後期	坂本 容子 (○)
科目目的 : 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的と役割を学ぶ 目標 : 1. 現代の子どもと家族を取り巻く社会環境について理解する 2. 子どもの権利を尊重した看護について理解する 3. 保健医療福祉チームとしての小児看護の役割を理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 参考文献 : ナーシング・グラフィック 小児看護学① 小児の発達と看護 MC メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験 80% ワークシート(子どもノート)20% 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 子どもが健康で健やかに育つ環境、少子化(出生数・合計特殊出生率・世帯構成など)の学習とつなげて、自身が生まれた社会状況と、現在の子どもたちの社会状況を見ていく。				

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	小児看護の 目指すところ	子どもの健康の とらえ方と看護 の役割を理解する	6	1. 小児看護の対象 1) 子どもの特徴 2) 子どもと家族・社会 3) 子どもと医療 2. グループワーク：自身の幼少期と現在の 違いを社会情勢・生活環境から理解して いきます 3. 小児看護の目標と役割	講義 グループ ワーク 発表
4	小児と家族 の諸統計	人口構造の変化 とその理由を理解する	2	1. わが国の人口構造 2. 出生と家族 1) 出生数、合計特殊出生率 2) 出生と母の年齢、世帯構造	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. 子どもの死亡 1) 周産期死亡 2) 乳児死亡 3) 子どもの死亡	
5	小児看護の変遷	小児の変遷を知り、わが国の小児医療の政策を理解する	2	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2. わが国の児童観・育児観の変遷 3. わが国の小児医療の変遷 4. 小児看護の変遷 5. 現代の小児看護	講義
6 7	小児看護における倫理	子どもの権利と医療現場で起こりやすい問題の特徴を理解する	4	1. 子どもの権利 2. 医療現場でおこりやすい問題点と看護 1) 医療・治療の選択・決定 2) 子どものケア 3) 研究における倫理 3. グループワーク：事例から小児の倫理について考えてみます	講義 グループワーク 発表
8	小児看護の課題	社会情勢や疾病構造の変化に応じた小児の課題を理解する	2	1. 疾病構造の変化と小児看護 1) 高度複雑化した医療 2) 継続看護 3) 他職種間の調整機能 4) 成人医療との協働 2. 社会変化と小児看護 1) 育児・養育機能の維持・増進 2) 小児保健の効率性・経済性 3) 小児救急医療の充実 3. 小児看護の専門分化 1) 看護の中の専門分化 2) 小児看護の中の専門分化	講義 DVD視聴 (医療と福祉のはざままで)
単位修得認定試験			1	筆記試験、ワークシート評価表で評価	

事前課題：授業時にその範囲を指定しますので国民衛生の動向を熟読してください。

事後課題：授業毎にワークシート(子どもノート)を記載し、講義終了3日後に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
母性看護学総論Ⅰ	1	15	1年後期	吉田かつえ（○）
科目目的：母性看護の基礎となる概念を学び、母性看護の対象の特徴から母性看護独自の特徴を理解する 科目目標：1. 母性とは何かを考え、母性をめぐる様々な定義を理解し、母性看護における母性の捉えかたについて学ぶ 2. 人間の性を示すセクシュアリティについて学ぶ 3. リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて理解を深める 4. 母性看護のあり方について、対象、看護の目的・目標から理解を深める 5. 母性看護の対象の特徴・特性について学ぶ				
教科書：系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 参考文献：都度紹介				
評価方法：筆記試験 100% 評価・認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60点～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 母性看護学の基礎となる部分です。自ら考え学習し、母性看護の理解を深めるためにグループワークでメンバーとの意見交換も行います。				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	母性とは	母性の特性について学ぶ	2	1. 親になることと母性 2. 母性の身体的特徴 3. 母性の心理・社会的特徴 4. 母性看護における母性	講義 グループワーク
2	母子関係と発達課題 セクシュアリティ	子どもとの関係から母性発達を学ぶ 人間が人間らしく健康に生きるためのセクシュアリティについて学ぶ	2	1. 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2. 家族機能、家族の発達課題 3. セクシュアリティとは 4. セクシュアリティの発達と課題	講義
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する	2	1. リプロダクティブヘルス/ライツとは 2. 女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 3. 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツ	講義

4	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて理解する	2	1. ヘルスプロモーションとは 2. 女性の生涯にわたる健康教育	講義
5	女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承	女性のライフサイクルの変化と家族の発達の関連から母性の一生を学ぶ 母性の発達・成熟・継承について学ぶ	1	1. 現代女性のライフサイクル 2. 家族の発達段階と家族看護 3. 女性性の発達 4. 母性の発達 5. 母子関係と愛着 6. 母子の世代間伝達	講義
6	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	生殖器の形態・機能について学ぶ	2	1. 生殖器の形態・機能 2. 妊娠と胎児の性分化	講義
7 8	母性における倫理 安全・事故防止	母性看護の実践するうえで重要な倫理について学ぶ	4	1. 生命倫理と看護倫理 2. 看護における倫理的意決定 3. 事例提示から学生間の意見交換	講義 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
精神看護学総論Ⅰ	1	15	1年後期	鎌田 たまみ（○）
科目目的：精神看護の意義、対象、役割、機能を理解し、精神の危機的状況や障害を持つ人とその家族に必要な基本的な知識を学ぶ 目標：1. 精神看護の目的・目標を理解する 2. 精神看護の対象を理解する 3. 精神看護の役割と機能を理解する 4. 精神看護の動向と課題を理解する				
教科書：新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論、精神保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人への看護 メヂカルフレンド社 参考文献：その都度紹介します				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：教科書、配布資料を基に進めていきます				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	精神看護の目的・目標	精神看護の目的・目標を理解する	4	1. 精神看護学の位置づけ 2. 精神看護の目的と目標 3. 精神看護学と精神看護	講義
3 4 5 6	精神看護の対象	看護の対象となる（個人と集団）人について理解する	7	1. 看護の対象である個人及び集団 2. あらゆる発達段階にある人とその家族 3. あらゆる健康段階にある人とその家族 4. ノーマライゼーションと精神障害者の人権・倫理	講義 グループワーク
7 8	精神看護の機能・役割	看護の役割と機能について理解する	4	1. 精神の病気について悩んでいる人とその家族に対する看護 2. 精神的危機状況への看護 3. 精神保健と相談、社会資源とネットワークづくり 4. 家族への支援 5. コンサルテーションリエゾン精神看護	講義 DVD
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
在宅看護論総論Ⅰ	1	15	1年 後期	櫻井美奈子（○）
科目目的：在宅看護の対象と家族の特徴を理解し、在宅看護の機能と役割を理解する 目標：1. 在宅看護の現状から、在宅看護の理念・目的、看護師の役割と機能を理解する 2. 在宅看護の対象となる療養者と家族の特徴を理解する 3. 在宅看護における倫理的課題について理解する				
教科書：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 参考文献：ナースング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 看護学テキスト NiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして 南江堂 在宅看護論 実践をことばに（第6版） ヌーベルヒロカワ				
評価方法：筆記試験 100% 評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 3. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきますので、積極的に参加しましょう				

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	在宅看護 の目的と 特徴	在宅看護の概念を理解する 在宅看護における看護師の役割を理解する	4	1. 地域看護と在宅看護の関連 2. 在宅看護が目指すもの 1)在宅看護の理念・目的 2)在宅看護の場の広がり 3. 在宅看護における看護師の役割と機能 1)地域包括ケアシステム 2)医療ニーズに応じた継続的な医療 (1)継続的に支え続ける医療・介護の提供体制 (2)地域連携クリティカルパス (3)退院支援・退院調整 (4)医療提供の場と医療内容の検討 (5)継続的な医療の提供	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7	在宅看護 の対象	在宅看護の対象と家族の特徴を理解する 家族を含めた在宅看護の必要性を理解する 日本の家族と家族支援の特徴を理解する	9	1. 対象の特徴 1)年齢・疾患・障がいからみた特徴 2)在宅療養状態別(健康・障害レベル別)にみた特徴 3)法制度からみた対象 2. 対象の家族 1)在宅看護の対象としての家族 2)家族アセスメントの必要性 3)家族アセスメントに有効な理論 (1)家族システム理論 (2)家族発達理論 (3)家族危機理論 4)家族アセスメント 5)日本の家族の特徴と家族看護 (1)家族による介護の状況 (2)介護負担 (3)介護力に応じた家族支援	講義 グループ ワーク
8	在宅療養 者の権利 保障	在宅療養者の権利保障について理解する 在宅看護に関わる者としての基本姿勢を理解する	2	1. 在宅看護に関係する法の理解 1)個人の尊厳 2)自己決定権 3)個人情報保護法 4)成年後見制度 (1)法定後見 (2)任意後見 5)高齢者虐待防止法 (1)虐待の規定・類型 (2)虐待への対応 2. 在宅看護における看護師の倫理 1)看護師が陥るジレンマ 2)訪問看護倫理要綱	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

(事前課題)

第1回 : 教科書 第1章 在宅看護の目的と特徴を熟読する。

第2回 : 教科書 付章 訪問看護倫理要綱を熟読する。

第3～7回 : 教科書 第2章 在宅看護の対象を熟読する。

第8回 : 教科書 第4章 在宅看護の展開「対象(家族も含む)の権利保障」を熟読する。